

II. 部門報告

先駆的学習支援部門

坪倉繁美 境原三津夫 山田正実 後田穰 菊地美帆
新潟県立看護大学看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

先駆的学習支援部門は、看護・医療・福祉分野の研究や実践に関する新しい知見やトピックスについて著名な学識者あるいは先駆的な活動を行っている実践者を招き、公開講座やシンポジウムを開催することにより、地域住民の方々に学習の機会を提供している。平成25年度は2回の「市民公開講座」と上越教育大学との連携事業である「上教大・看護大連携公開講座」を開催した。

1 第1回市民公開講座

テーマ 禁煙はこんなに変わった

—知っているようで知らない禁煙の話—

日時 平成25年6月29日(土) 13:30~15:00
公開講座終了後(15:00~18:30)「全国禁煙
アドバイザー育成講習会」を開催

講師 高橋裕子 先生

京都大学医学部附属病院 禁煙外来 内科医



講師紹介

京都大学医学部卒業後、同大学医学博士課程修了、内科医、医学博士である。京都大学医学部附属病院、天理よろづ相談所病院などを経て、平成6年大和高田市立病院に日本で最初の「禁煙外来」を開設し、平成10年からは全国の禁煙者を対象に「インターネット禁煙マラソン」を提供している。

現在は、奈良女子大学保健センター教授、同大学院教授を務めるとともに、京都大学医学部附属病院の禁煙外来担当医であり、日本禁煙科学会理事長も務めるなど、禁煙指導の内科医の第一人者として、NHKの「ETV2002」「ためしてガッテン」「きょうの健康」などの出演や禁煙指導者育成のための講習会を全国で精力的に展開している。著書は「禁煙マラソン」光文社・知恵の森文庫(2002)、「禁煙外来の子どもたち」東京書籍(2002)、「こちら禁煙外来」新潮社(2001)、「ポジティブ禁煙」東京法規出版(2009)など多数。日本きもの学会会長も務める。

講義内容

たばこを吸うことによる弊害はさまざまにある。たばこを吸っている人は、血圧は一般の人に比べ2.5倍も高く、肺がんのリスクが高く、インフルエンザにもかかりやすく悪化しやすいが、たばこをやめると肺がんの罹患率は減少する。まるで空気の中でおぼれるがごとくの苦しさと横にもなれないような体験をする病気であるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)患者の9割は喫煙者である。糖尿病の人は合併症も早く出現する。またたばこの煙は17~25m周辺にいる人々にも及び、家のなかにも煙の残りを持ち込むことになるなど、たばこの煙の害は本人のみならず周辺へと広がる。

成人の喫煙率は1960年85%あったものが、2012年は21%となった。禁煙した人から、「禁煙することによって人生が変わった」「積極的で前向きになった」という反応がある。また周辺では、たばこを吸うための離席がなくなり職場も快適で人間関係もスムーズになったということを知る。何歳からでも禁煙はできる。薬で80%は禁煙できる。禁煙したことによって、食べ物の味や臭いが変わるようになり、食事を薄味にするチャンスにもなる。

これらの変化は1週間で自覚できる。他にも“禁煙してよかったこと”を見つけることが、禁煙成功の鍵である。ただ、禁煙に成功しても、5～9割の再喫煙の可能性もある。こころの依存に効くのはサポートであり、家族や周囲の人たちのサポートが大切である。「禁煙は、子や孫に残せる財産」である。

参加者の状況

(1)参加者 48人

(2)アンケート結果による評価

①アンケートの回収 40人

②講師の話の全体的な感想

非常によかった 35人(87.5%) 良かった 5人(12.5%)

③感想の一部

- ・ 禁煙は自分には関係ないと思っていたが、禁煙するには周りのサポートが重要であり、自分もそこに関わっていきたくて思いました。
- ・ 平常話にのぼるが、身にしみたので役立てようと思う。きょうの話は人生に大変役立つ。
- ・ 禁煙をサポートすることをあきらめずに続けていきたくて思い、勇気をもらった。

2 第2回市民公開講座

テーマ 高齢者の社会参加とヘルスプロモーション

日時 平成25年10月18日(金) 18:00～19:30

講師 新開省二 先生

東京都健康長寿医療センター研究所

社会参加と地域保健研究チームリーダー(研究部長)

講師紹介



医師で医学博士、1998年より現在の研究所に勤務。1990-1991年 カナダ・トロント大学へ旧文部省の在外研究員として留学のご経験がある。厚生労働省「次期国民健康づくり」の運動に関する委員会委員である。研究分野は、高齢者施策、高齢者の社会参加を中心にした研究活動、論文が多数ある。著書としては、専門職を対象にしたものとして、*Gender ,Physical Activity & Aging.CPC press*(2002)、「高齢社会における福祉・労働・健康」杏林書院(2001)、「健康増進・疾病予防の基礎と臨床」ライフサイエンスセンター(1998)など多数ある。

一般市民にむけては、「ビートたけしの本当は怖い家庭の医学」などのテレビ出演をはじめ、「50歳を過ぎたら粗食はやめなさい」草思社(2011)、などを通して高齢者の健康について幅広く啓発指導している。

講義内容

健康日本21(第2次)で取り上げられた高齢者の健康目標は、「健康寿命の延伸」「健康格差をなくす」である。そのなかでも健康格差が少ないのが高齢者である。そして高齢者の長寿の秘訣は、①栄養、②体力、③社会参加であり、これら長寿の秘訣が保たれ好循環に

機能することによってセカンドライフをうまく生きていくことができる。

高齢者の健康寿命の促進要因は、仕事・社会活動、健康度自己評価(よい)、筋力(強い)、バランス能力(高い)、歩行速度(早い)、栄養の指標でもあるアルブミン(高い方)、コレステロール(高い方)である。体格では、細い人より少し太い人が生存率も高い。このように健康寿命と栄養は密接な関係があるので、動物性蛋白質が不足しないように多様な食品を摂取しながら栄養を保持し、健康寿命を延伸することが重要である。

また認知機能が低下しやすい高齢者の特徴は、一人暮らし、高脂血症の既往歴なし、歩幅が狭い、低栄養(赤血球が少ない、総コレステロール値が低い、アルブミン値が低い)、高年齢、認知機能検査(MMSE)のスコアが高いなどである。

外出頻度が多い人は歩行障害も少ない。そして運動習慣がある人と社会参加をしている人というのは、よく外出する人でもある。アクティビティー(身体活動)は足腰の衰えを防ぎ、コミュニケーションは認知機能の衰えを防ぐことになるので、外出は身体と脳を活性化させるともいえる。健康寿命の延伸のためにも十分な栄養をとり、社会とつながって暮らすことが必要である。

参加者の状況

(1)参加者 145人

(2)アンケート結果による評価

①アンケートの回収 116人

②講師の話の全体的な感想

非常によかった 61人(52.6%) 良かった 43人(37.1%)

普通 7人(6.0%) 少し難しかった 2人(1.7%)

難しかった 0人 無回答 3人 (2.6%)

③感想の一部

- ・健康寿命を延ばし、寝たきりにならないためには栄養をしっかりとり、運動、社会参加等、なるほどと思います。歳をとっても働かせてもらっていますので、ありがたいなと思いました。
- ・生命レベル、人生レベルで、役割をもって社会参加していくことが重要だと学び、貴重な話だった。
- ・健康維持のために太らないこと、脂質を控えることなどが大切と思っていたが、高齢者にとっては必要な場合もあり、新たな視点をもって指導を行いたい。

3 平成25年度 上教大・看護大連携公開講座

テーマ 上越の発酵食品と発酵のふしぎ

日時 平成25年7月20日(土) 13:30~15:00

場所 上越市市民プラザ 1階ホール

講師 光永 伸一郎 (上越教育大学教授)

トークセッション

パネリスト 山林 光男 (元丸久味噌 (株)工場長 現代の名工)

飯吉 由美 (鮎正宗酒造 (株)製造部 蔵の後継者)

エルダトン・サイモン(新潟県立看護大学助教)

講座の内容

講座では上越の発酵食品の伝統や特長、発酵食品がもつ生活習慣病予防や老化防止といった健康効果について話題が提供された。

上越教育大学の光永伸一郎教授による基調講演では、発酵に関連する微生物や発酵、発酵食品の特徴が話された。中でも発酵食品の要となるカビの生育には高温多湿であることが必要であり、上越の気候風土は発酵食品に向いているということが強調された。



伝統的な上越の発酵食品である酒、みそ、しょうゆなどは、上越地域の伝統的な特産品として根付いている。これらの伝統的特産品には麴造りをはじめとする様々な名工的な技、それらの技が脈々と伝承され、地域の特産品としての輝きも保たれるのである。また発酵食品のみそに存在するポリアミンは動脈硬化を抑え、乳酸菌はNK細胞を活性化し免疫力を高めるなどなど、発酵食品の健康効果について教授していただいた。

トークセッションでは、元丸久味噌(株)工場長 現代の名工である山林光男氏からは、長年、みそ造りに携わってきたご経験に基づく様々なお話をいただいた。特に、上越の伝統的な浮こうじみそを造る際のノウハウについてのお話は、技術者のみが知り得る貴重な内容であった。また、江戸時代より続く丸久味噌の原料に対するこだわりや、商品コンセプトなどについても併せてご紹介いただいた。

鮎正宗酒造(株)製造部 蔵の後継者である飯吉由美氏からは、東京の大学を卒業されてから現在のお仕事に就くまでのご自身の経歴について詳しくお話しいただくとともに、酒造りに傾ける思いについても語っていただいた。銘酒・鮎正宗の製造工程や酒蔵を取囲む恵まれた自然環境など、極上のお酒が生み出されている背景についてもご説明いただいた。

新潟県立看護大学助教でニュージーランド出身のエルダトン・サイモン氏からは、初めて日本に留学した際の発酵食品との衝撃的な出会いについてユーモアを交えて語っていただくとともに、珍しいニュージーランドの発酵食品についてご紹介いただいた。実際にビール酵母からつくられる発酵食品・マーマイトをご持参いただき、発酵食品に対する思いについて食文化の視点からお話しいただいた。

参加者の状況

(1)参加者 185人

(2)アンケート結果による評価

①アンケートの回収 122人

②講師の話の全体的な感想

非常によかった	29人(23.8%)	良かった	46人(37.7%)
普通	24人(19.7%)	少し難しかった	6人(4.9%)
難しかった	8人(6.6%)	無回答	9人(7.4%)

③感想の一部

- 日本人の食生活と微生物、発酵食品とのかかわりについて、身近で役立つこととの話が聞けて良かった。
- 新幹線が通るので、観光客用に発酵を見ていただき、販売もできるよう、みそ蔵・酒蔵などの見学ツアーなども考えていきたいと思う。
- 海外の人からの視点で発酵食品のことを聞けて良かった。

地域社会貢献部門

飯吉令枝 大久保明子 片平伸子 渡邊千春 竹原則子 内藤みほ 川里庸子

新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域社会貢献部門

I. 看護大いきいきサロンの開催

1. 平成 25 年度看護大いきいきサロンの開催状況

地域社会貢献部門では、地域住民の方々が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指して平成 21 年度から開催してきた「看護大いきいきサロン」を継続して企画・運営した。

H25 年度は、高齢者の参加も多いことから暑い 8 月と足元が悪くなる 12 月の 2 回を昨年度より減らして平日夕方に実施した。講師は、上越地域で開業している医師および運動指導士、大学の教員等で、それぞれの先生から専門とするテーマでの講演のあと、地域住民の方々からの質問に答えてもらう時間を設けた。

1) 看護大いきいきサロンの開催日時およびテーマ・講師と参加人数

平成 25 年度の 6 回のテーマ、講師は以下のとおりである。

表 1 平成 25 年度看護大いきいきサロンの開催日時およびテーマ・講師と参加人数

回	日時	テーマ	講師	参加人数
第 1 回	5/28(火) 18:30~19:30	今日からはじめる転倒予防	新潟県立看護大学 准教授 高柳智子	72 人
第 2 回	6/13(木) 18:30~19:30	骨粗鬆症とロコモティブ シンドローム	たかの整形外科クリニック 施設長 高野祐先生	82 人
第 3 回	7/18(木) 18:30~19:30	脳血管疾患(脳卒中)についてのお話	上越総合病院脳神経外科 部長 江塚勇先生	109 人
第 4 回	9/19(木) 18:00~19:00	生活習慣病とメタボリック シンドローム～糖尿病、高脂血症、高血圧、肥満～	高橋医院 院長 高橋慶一先生	83 人
第 5 回	10/22(火) 18:00~19:00	楽楽体操で動きがら～くらく～自分でお手当てするだけで動きが楽に～	糸魚川市役所 健康増進課 健康運動指導士 樋口和子先生	57 人
第 6 回	11/14(木) 18:00~19:00	ぐっすり眠る、すっきり起きる習慣術 ～朝に強くなる、とっておきの方法～	新潟県立看護大学 准教授 高林知佳子	81 人

平成 25 年度の参加者は 484 人であった。

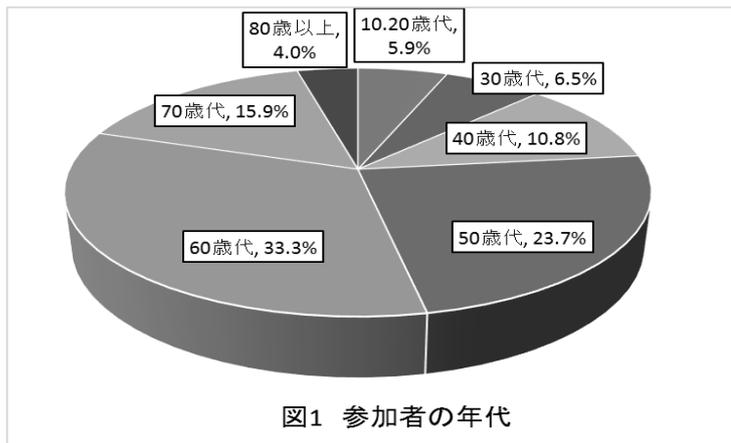
平成 21 年度から開始して、いきいきサロンの参加者は通算 2,603 人となった。

2) 看護大いきいきサロン参加者のアンケート結果

(1) 参加者の年代・性別

60 歳代が 33.3%と最も多く、次いで 50 歳代が 23.7%、70 歳代が 15.9%であった。

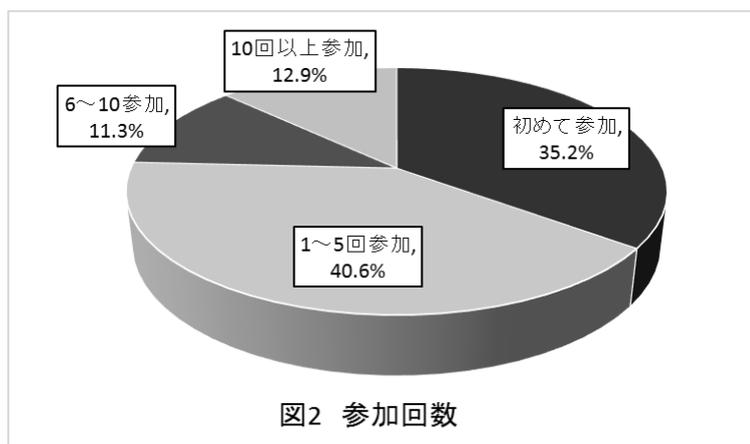
性別では、男性が 31.6%、女性が 68.4%であった。



(2)参加回数

これまでに 1~5 回参加したことがある人が 40.6%と最も多かった。

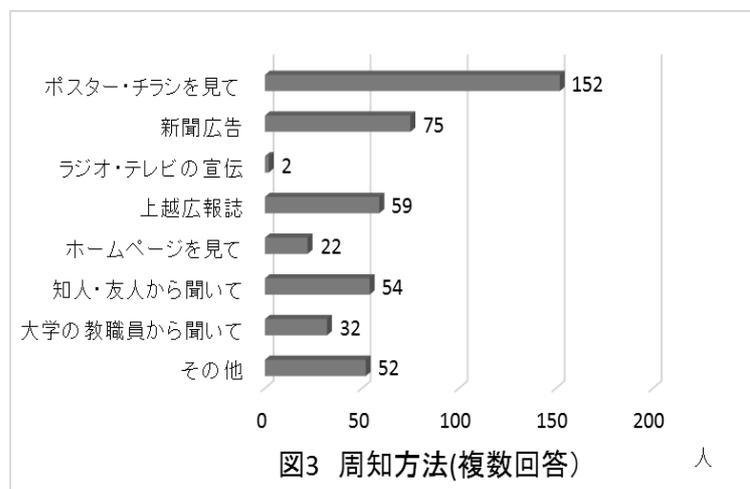
3 割の人が初めての参加であった。



(3)周知方法

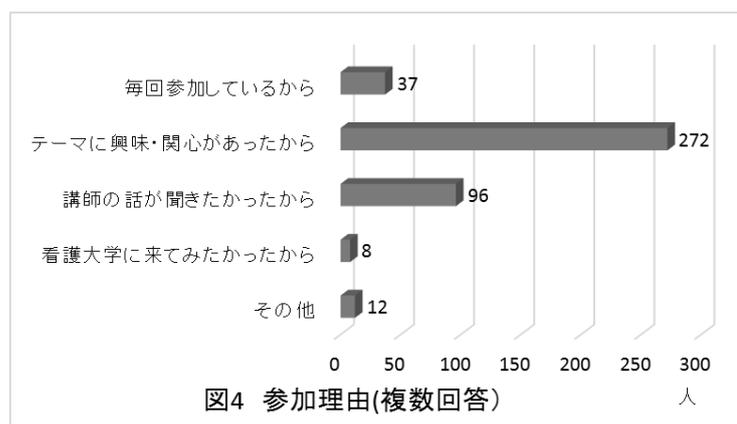
「ポスター・チラシを見て」参加した人が 152 人(40.9%)と最も多く、次いで「新聞広告」75 人(20.2%)、「上越広報誌」59 人(15.9%)であった。

「ホームページを見て」参加した人は 22 人(5.9%)であった。



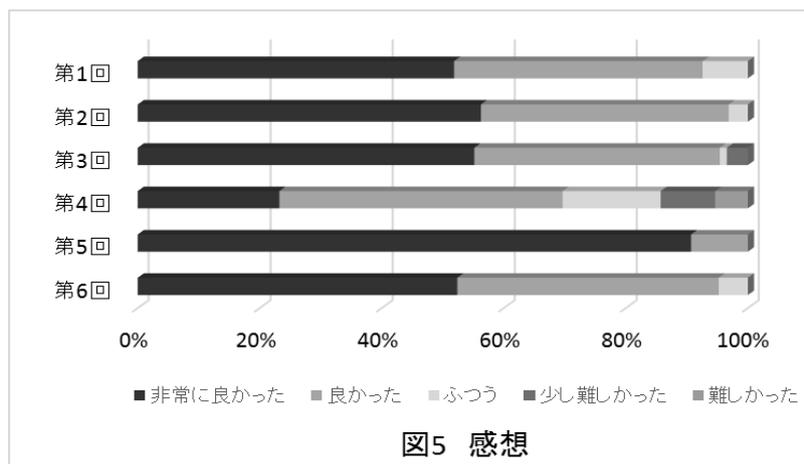
(4)参加理由

参加理由では、「テーマに興味・関心があったから」が 272 人(73.1%)と最も多く、次いで「講師の話が聞きたかったから」が 96 人(25.8%)であった。



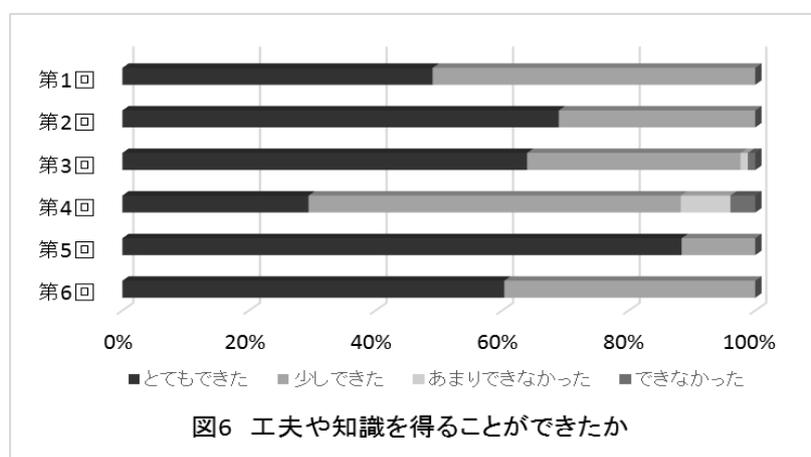
(5)講師の話についての感想

6回中5回の講義では、「非常によかった」「よかった」と回答した人が9割以上であった。第5回は、アンケート回答者全員が「非常によかった」「よかった」と回答していた。



(6)健康でいきいきと生活するための工夫や知識を得ることができたか

6回中4回の講義では、アンケート回答者全員が「とてもできた」「少しできた」と回答していた。



(7)今後とりあげてほしいテーマ

目や耳の病気、消化器系の話、認知症の話、脳卒中、肩こり、腰痛、糖尿病の血糖値の下げ方法について等、多くのテーマがあげられていた。

2. いきいきサロンの運営

1)企画実行メンバー

地域社会貢献部門のメンバーで講師交渉と接待、サロン通信の作成、必要物品の購入、学生ボランティアの依頼、当日運営を役割分担して行った。

ポスター・チラシの作成・発送、講師資料の印刷、当日の受付等については、看護研究交流センター事務局から、当日の会場準備は看護研究交流センター事務局と大学の事務職員から手伝ってもらった。

当日の運営では、学生ボランティア2名から会場準備と受付を行ってもらった。

2)広報活動

看護研究交流センターの案内パンフレットの発送、FM-Jの出演(1回)、看護大いきいきサロン通信の発行(2回)の他、毎回実施前にポスター・チラシの作成と配布、大学ホームページ

での情報公開、NICかわら版、上越タイムス「くびきの創信」等への掲載を行った。

3)講師謝礼

学外からの講師には1回1万円および交通費を支払った。

4)参加者への接待

昨年と同様、参加者に対してお茶のサービスを行った。初回参加者には講義資料の保管用ファイルを配布した。また今年度からは開始前にリラックスできるような音楽を流すことで、サロンの雰囲気を出すための工夫を行った。

3. 平成25年度の評価と今後の課題

今年度は回数を8回から6回に減らしたため、昨年と比べて年間参加者は100人近く減少したが、いきいきサロンも5年目を迎え、通算2,603人の参加者があり、地域住民の方々に周知されてきていると思われる。参加者はテーマに興味・関心があって参加される方が多く、健康について地域住民の方々が気軽に学べる場になってきていると考える。

今後は、病院等で実施している健康講座と競合しないよう、看護や健康に関するテーマで、いきいきと生活していくことを応援できるような内容にしていく必要がある。また、講演を依頼する講師の選定においては、新たな講師の開拓だけでなく、過去にいきいきサロンで講演を行なった講師も候補とし、参加者からの希望が多い方にテーマをかえて依頼し、地域住民の方のニーズに合った内容をさらに検討していきたいと考える。

資料1ー平成25年度いきいきサロン通信第1号



公立大学法人 新潟県立看護大学 看護交流センター 地域貢献事業

看護大いきいきサロン通信

第5巻 第1号 2013/05/28発行

看護大学を会場に、健康に関心のある地域のみなさまが、気楽に集える無料の市民講座です。健康でいきいき生活するためのヒントを地域のホームドクターや本学の教員がお話します。医療や看護の専門家に、普段は聞けないこともこの機会に是非聞いてみるにはいかがでしょうか。ご参加いただいた方には、資料を収められるファイルを差し上げています。看護大の名前入りの粗品も毎回ご用意しています。



これからの予定を紹介します！

聞いてみたいテーマや気になっていることなどがありましたら、アンケートにお書きください。次年度の企画の参考にさせていただきます。

日時	テーマ	講師
6月13日(木) 18:30~19:30	第2回 骨粗鬆症とロコモティブシンドローム	たかの整形外科クリニック 院長 高野 祐 先生
7月18日(木) 18:30~19:30	第3回 脳血管疾患(脳卒中)についてのお話	上越総合病院 脳神経外科 部長 江塚 勇 先生
9月19日(木) 18:00~19:00	第4回 生活習慣とメタボリックシンドローム ~糖尿病・高脂血症・高血圧・肥満~	高橋医院 院長 高橋 慶一 先生
10月22日(火) 18:00~19:00	第5回 楽楽体操で動きがらくらく ~自分でお手当するだけで動きが楽に~	糸魚川市役所 健康増進課 健康運動指導士 樋口 和子 先生
11月14日(木) 18:00~19:00	第6回 くっすり眠る、すっきり起きる習慣術 ~朝に強くなる、とっておきの方法~	新潟県立看護大学 准教授 高林 知佳子 先生

9月から冬時間となり、18時スタートですのでお間違えないようにお願いします。



お申し込みは不要です。どうぞお気軽にご参加ください。スタッフ一同、みなさまにお会いできることを楽しみにしています。

資料2ー平成25年度いきいきサロン通信第2号

新潟県立看護大学

看護研究交流センター 地域社会貢献部門



看護大いきいきサロン通信

第5巻2号 2013/9/19発行

看護大いきいきサロンは、健康に関心のある地域の皆様と気楽に集うための市民講座です。
平成25年度の第1回～第3回までの内容をダイジェスト版でお伝えします！

第1回 今日からはじめる転倒予防 (5/28)

講師：高柳智子先生（新潟県立看護大学）

- ・転ぶ場所は家庭内が3割。 段差や階段よりも平面が多いので注意！
- ・転ばないために、足の指の力を高めよう！
(床に置いたタオルの足指でのたぐり寄せを練習しよう)
- ・歩行時は 'つま先' で地面をけり 'かかと' から着地しよう！



JCVの取材がありました！



丁寧に質問に答えていただきました！

第2回 骨粗鬆症とロコモティブシンドローム (6/13)

講師：高野 祐 先生（たかの整形外科クリニック）

＜ロコモティブシンドローム（運動器の衰え）のトレーニング＞

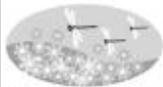
- ・開脚片足立ち：動かない机やイスにつかまりながら片足を上げ、左右1分ずつ、1日3回
- ・スクワット：イスに腰をかけるように、ゆっくりとお尻を下すひざは曲げすぎないように 机につかまってもOK 深呼吸のペースで5～6回を1日3回

第3回 脳血管疾患（脳卒中）についてのお話 (7/18)

講師：江塚 勇 先生（上越総合病院）

- ・脳卒中には「脳の血管がつまる脳梗塞」
「脳の血管が破れる脳出血」
「脳動脈瘤の破裂によるクモ膜下出血」がある。
- ・いずれも予防には、血圧を正常に保つことと血管の動脈硬化を進行させる糖尿病のコントロールが重要！
- ・CTやMRI検査を受けて、脳の血管を調べてみましょう！

109名と多くの方に
ご参加いただきました！



これからの 'いきいきサロン' にもぜひお越しください！

第5回 10月22日 (火) 18:00～19:00	楽楽体操で動きがら～くらく ～自分でお手当するだけで動きが楽に～	糸魚川市役所 健康増進課 健康運動指導士 樋口 和子 先生
第6回 11月14日 (木) 18:00～19:00	ぐっすり眠る、すっきり起きる習慣術 ～朝に強くなる、とっておきの方法～	新潟県立看護大学 准教授 高林 知佳子 先生

お申し込みは不要です。どうぞお気軽にご参加ください。
スタッフ一同、みなさまにお会いできることを楽しみにしています。

看護職学習支援部門

橋本明浩 原等子 飯田智恵 井上智代 河野優子 加賀美亜矢子 櫻井信人
新潟県立看護大学看護研究交流センター 看護職学習支援部門

I 本部門の事業目的

新潟県内、特に上越地域の看護職の総合的な資質向上を目指し、様々な学習および研修の機会を提供する。また卒業生の卒業後教育も視野に入れた看護職の復職支援を行う。

II 平成 25 年度の事業の概要

本部門が企画した専門公開講座は、本年度は参加者個々のニーズに対応すべく少人数のグループワークを中心に実施した。参加者一人一人の声が届く充実した講座が多かった。本年度は通常の専門公開講座に加え、ELNEC-J(The End-of-Life Nursing Education Consortium Japan)コアカリキュラム看護師教育プログラムを実施した。このプログラムは日本緩和医療学会のプログラムを用いて行われ、34名の修了生を出し、次年度の開催も期待されている。上記を含め専門公開講座は9回開講、バーチャルカレッジ開講(年間200万アクセス)、ドコカレ通信の発行6回(予定を含む)を通じ、参加者(メイト)との交流を図っている。

専門公開講座には毎回、他職種の参加もあり、本年度の特徴としてグループワークも多かったことから、様々な視点から意見を交換し、共に学ぶことができたことに対する喜びの声なども聞かれた。第9回講座は県の地域連携、多職種連携、医療福祉連携の方針もあり、上越地域在宅医療連携協議会(多職種連携研修等企画委員会)、新潟県上越地域振興局健康福祉環境部との共同主催として多職種連携に関する講座を実施した。

1. 専門公開講座

専門公開講座は9回開講、バーチャルカレッジ開講(年間200万アクセス)、ドコカレ通信の発行6回(予定を含む)を通じ、参加者(メイト)との交流を図っている。

専門公開講座には他職種の参加も毎回みられ、本年度はグループワークも多かったことから、参加者から共に学ぶことの喜びの声なども聞かれている。

2. ドコカレ通信

公開講座やバーチャルカレッジのメイトに対する周知を目的に、ドコカレ通信をメイト向けに発行している。内容は主に専門職公開講座の開催案内や実施報告などを中心としている。

実績を以下に示す。(表1 ドコカレ通信発行実績一覧参照)

なお、本学のリポジトリ等に収録しており、県下に公開している。

送付先(メイト・病院・特養、老健等介護施設・看護学校・訪問看護ステーション)

附録資料参照(担当 井上・河野)

3. バーチャルカレッジ

本年度の新規コースコンテンツの作成は専門職公開講座の特性から難しかったが、過去のコンテンツには依然関心を持たれているようで、平成 25 年度 10 月までに 2、532、607 のページビューがあった。月別の利用件数を以下に示す。なお、Google、Yahoo などの検索エンジンからの自動プログラムからのアクセスは除外してある。(表 3 バーチャルカレッジ月別アクセス数参照)

4. メイト

ともに学習する人々をメイトと呼び、別途申請書による登録を行い、ドコカレ通信などの送付を行い公開講座、市民講座、大学院等の案内をした。本年度新規加入は 4 名、2 月末現在メイト登録数は 122 名である。

5. 今後

専門公開講座の要望を資料 1 に示す。例年継続して行っている講座についての希望もあるほか、新規に企画する講座などについてはアンケートに記載された希望を参考に、看護専門領域だけではなく保健、福祉領域を含めた多様な講座が企画・実施できることが望ましいと考えられる。そのために、教員に幅広い協力を要請しつつ、実現可能な講座を精選し、実施していきたい。

また、今後も継続してメイト登録を維持していけるよう、講座内容やバーチャルカレッジコンテンツの充実を図る必要がある。

さらに、本年度公開講座を共同開催した上越地域在宅医療連携協議会には、部門として次年度以降オブザーバー参加を要請されており、講座などの役割分担について検討していくことが次年度に向けた課題である。

表1 ドコカレ通信発行実績一覧

	号名	発行日	送付部数	主な内容
1	18号	5月25日	248	本年度の公開講座等の一覧
2	19号	7月25日	246	近況報告と公開講座等の案内
3	20号	8月25日	246	近況報告と公開講座等の案内、市民公開講座、大学院等
4	21号	10月25日	244	近況報告と公開講座等の案内、地域課題研究案内
5	22号	1月25日	247	近況報告と公開講座の案内
6	23号	3月25日		公開講座の案内等

表2 専門公開講座開催実績 ※金額の下段()内は収入

	講座名	開催日	受講者数	金額	講師
1	倫理ジレンマ・グループワーク	6月15日(土) 14:00～15:40	11	無料	小泉美佐子(本学) 原等子(本学)
2	ケアをめぐる倫理的意思決定の支援について ケアにおける倫理コンサルテーションについて	6月15日(土) 17:00～20:00	17	無料	箕岡真子先生(箕岡医院 院長 東京大学大学院医療倫理学分野客員研究員)
3	ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」	7月13日(土) 7月14日(日) 9:00～17:00	34	4000円 (34000円)	石田和子(本学) 酒井禎子(本学・ELNEC-J 指導者) 他
4	リスク・マネジメント～要介護高齢者の自立支援とリスク管理～	8月4日(日) 13:00～16:30	40	無料	小泉美佐子(本学) 原等子(本学) 他
5	インターネット検索技術入門～見易く管理しやすい病院紹介のホームページの作成～	9月19日(木) 10:30～15:30	5	2000円 (10000円)	橋本明浩(本学)
6	見易く使いやすい院内マニュアル作成入門	9月20日(金) 10:30～15:30	6	2000円 (12000円)	橋本明浩(本学)
7	看護研究のため統計解析入門	9月21日(土) 10:30～15:30	4	2000円 (8000円)	橋本明浩(本学)
8	呼吸のフィジカルアセスメント	11月30日(土) 13:00～16:00	34	1000円 (34000円)	飯田智恵(本学)
9	地域医療・包括ケアの未来を拓く多職種連携 in 上越 第二部地域医療を担う多職種連携の課題(パネルディスカッション)	3月8日(土) 13:30～16:45	119	無料	【第二部】パネリスト 揚石義夫氏(揚石医院院長)、並木幸江氏(さくら聖母の園地域包括支援センター)、新保努氏(上村医院介護支援室)、清塚美希氏(県立十日町病院) コーディネーター 藤川あや、原等子(本学)

*敬称略
1人3000円分は ELNEC-Jへ

表3 バーチャルカレッジ月別アクセス数

月	4	5	6	7	8	9	10	合計
件数	341,092	405,270	670,107	354,723	144,119	365,453	251,843	2,532,607

上記集計の一例の計算根拠例

レポート 1183 件を表示
ページ: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (次へ)

時間	IPアドレス	ユーザフルネーム	操作	情報
水 2013年 11月 20日 11:45	192.168.99.72	橋本 明生浩	course report log	2008 看護情報処理セミナー
水 2013年 11月 20日 05:57	66.249.74.200	ゲストユーザ	course view	2008 看護情報処理セミナー
水 2013年 11月 20日 04:08	66.249.74.200	ゲストユーザ	forum search	
火 2013年 11月 19日 14:39	65.55.213.74	ゲストユーザ	course view	2008 看護情報処理セミナー
月 2013年 11月 18日 18:11	157.55.34.179	ゲストユーザ	forum search	
日 2013年 11月 17日 20:17	65.55.213.74	ゲストユーザ	course view	2008 看護情報処理セミナー
木 2013年 11月 14日 04:24	65.55.213.73	ゲストユーザ	course view	2008 看護情報処理セミナー
水 2013年 11月 13日 03:41	65.55.213.73	ゲストユーザ	course view	2008 看護情報処理セミナー
火 2013年 11月 12日 03:50	65.55.213.73	ゲストユーザ	course view	2008 看護情報処理セミナー
日 2013年 11月 10日 09:31	65.55.213.73	ゲストユーザ	course view	2008 看護情報処理セミナー

図1 集計の一例の計算根拠例

表 4 月別サーバ作業時間数値(単位時間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	総計
信越情報	0.0	1.1	3.0	2.5	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.2	9.5
大学	17.4	6.2	9.0	46.6	20.2	20.5	7.5	32.0	32.6	10.6	202.3
総計	17.4	7.3	12.0	49.1	20.2	20.5	7.5	34.6	32.6	10.8	211.8

根拠統計

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	ID	作業場所	曜日	月	日	開始	終了時間	時間	日換算	時間換算
2	大学	192.168.10.32	Fri	Jan	31	16:57	17:38	0:40	0.03	0.66667
3	大学	hash-p7.ncn.niig	Fri	Jan	31	16:53	18:03	1:09	0.05	1.15000
4	大学	hash-p7.ncn.niig	Fri	Jan	31	12:10	15:50	3:39	0.15	3.65000
5	大学	hash-p7.ncn.niig	Thu	Jan	30	14:48	15:50	1:01	0.04	1.01667
6	大学	192.168.99.86	Wed	Jan	22	13:38	16:43	3:05	0.13	3.08333
7	大学	192.168.99.86	Wed	Jan	22	13:26	13:36	0:09	0.01	0.15000
8	信越情報	192.168.10.150	Wed	Jan	22	11:19	11:20	0:01	0.00	0.01667
9	信越情報	192.168.10.150	Wed	Jan	22	10:32	10:32	0:00	0.00	0.00000
10	信越情報	192.168.10.151	Tue	Jan	21	18:10	18:22	0:11	0.01	0.18333
11	大学	192.168.99.105	Fri	Jan	17	9:58	10:49	0:50	0.03	0.83333
12	大学	192.168.99.110	Wed	Dec	4	9:16	19:19	10:02	0.42	10.03333
13	大学	192.168.99.110	Tue	Dec	3	14:19	16:42	2:22	0.10	2.36667
14	大学	192.168.99.110	Mon	Dec	2	13:21	9:33	20:11	0.84	20.18333
15	大学	192.168.99.110	Thu	Nov	28	12:00	17:27	5:26	0.23	5.43333
16	大学	192.168.99.110	Thu	Nov	28	11:47	17:27	5:40	0.24	5.66667
17	大学	192.168.99.72	Fri	Nov	22	11:14	15:35	4:21	0.18	4.35000
18	大学	192.168.99.72	Wed	Nov	20	10:54	19:31	8:37	0.36	8.61667
19	大学	192.168.99.72	Mon	Nov	11	13:37	17:27	3:50	0.16	3.83333
20	信越情報	192.168.10.151	Wed	Nov	6	15:00	15:26	0:26	0.02	0.43333
21	信越情報	192.168.10.152	Wed	Nov	6	14:56	15:44	0:47	0.03	0.78333
22	信越情報	192.168.10.152	Wed	Nov	6	10:20	11:00	0:40	0.03	0.66667
23	信越情報	192.168.10.151	Wed	Nov	6	9:50	9:51	0:00	0.00	0.00000
24	信越情報	192.168.10.152	Wed	Nov	6	9:32	9:44	0:11	0.01	0.18333
25	信越情報	192.168.10.152	Wed	Nov	6	9:10	9:44	0:33	0.02	0.55000
26	大学	192.168.99.72	Tue	Nov	5	14:08	18:13	4:04	0.17	4.06667
27	大学	192.168.99.52	Thu	Oct	24	14:36	16:06	1:29	0.06	1.48333
28	大学	192.168.99.101	Wed	Oct	16	9:39	15:40	6:01	0.25	6.01667
29	大学	hash-p7.ncn.niig	Tue	Sep	17	15:54	18:03	2:09	0.09	2.15000
30	大学	hash-p7.ncn.niig	Fri	Sep	13	9:33	18:10	8:36	0.36	8.60000
31	大学	hash-p7.ncn.niig	Tue	Sep	10	10:26	12:04	1:37	0.07	1.61667
32	大学	hash-p7.ncn.niig	Mon	Sep	9	16:29	17:03	0:34	0.02	0.56667
33	大学	hash-p7.ncn.niig	Tue	Sep	3	11:46	19:17	7:31	0.31	7.51667
34	大学	192.168.99.79	Tue	Aug	27	12:06	17:35	5:28	0.23	5.46667
35	大学	192.168.99.79	Fri	Aug	23	11:23	18:07	6:44	0.28	6.73333
36	大学	192.168.99.79	Wed	Aug	21	10:12	14:12	3:59	0.17	3.98333
37	大学	192.168.99.79	Wed	Aug	21	10:10	14:11	4:00	0.17	4.00000
38	大学	192.168.99.81	Wed	Jul	31	9:51	19:58	10:07	0.42	10.11667
39	大学	192.168.99.81	Wed	Jul	31	9:34	17:34	8:00	0.33	8.00000
40	大学	192.168.99.81	Tue	Jul	30	13:01	20:15	7:13	0.30	7.21667
41	大学	192.168.99.81	Mon	Jul	29	14:22	17:16	2:53	0.12	2.88333
42	大学	192.168.99.81	Thu	Jul	25	14:06	16:03	1:56	0.08	1.93333
43	大学	192.168.99.81	Thu	Jul	25	10:34	13:35	3:00	0.13	3.00000
44	大学	192.168.99.81	Wed	Jul	24	11:40	14:56	3:16	0.14	3.26667
45	信越情報	192.168.10.151	Wed	Jul	24	9:01	9:04	0:02	0.00	0.03333
46	信越情報	192.168.10.151	Wed	Jul	24	8:38	11:08	2:30	0.10	2.50000
47	大学	192.168.99.81	Mon	Jul	22	11:42	18:45	7:03	0.29	7.05000
48	大学	hash-p7.ncn.niig	Thu	Jul	11	13:25	16:32	3:07	0.13	3.11667
49	大学	students.niigata	Fri	Jun	28	15:57	16:27	0:29	0.02	0.48333
50	大学	hash-p7.ncn.niig	Wed	Jun	12	9:38	12:23	2:45	0.11	2.75000
51	信越情報	192.168.10.150	Sun	Jun	9	13:06	13:18	0:11	0.01	0.18333
52	信越情報	192.168.10.150	Fri	Jun	7	17:02	17:04	0:01	0.00	0.01667
53	信越情報	192.168.10.150	Fri	Jun	7	16:14	16:56	0:41	0.03	0.68333
54	大学	hash-p7.ncn.niig	Fri	Jun	7	11:37	15:55	4:17	0.18	4.28333
55	信越情報	192.168.10.150	Thu	Jun	6	16:44	18:40	1:55	0.08	1.91667
56	信越情報	192.168.10.150	Thu	Jun	6	15:56	16:11	0:14	0.01	0.23333
57	大学	hash-p7.ncn.niig	Tue	Jun	4	9:20	10:48	1:27	0.06	1.45000
58	信越情報	192.168.10.150	Thu	May	30	14:09	14:23	0:13	0.01	0.21667
59	信越情報	192.168.10.150	Thu	May	30	11:19	11:23	0:04	0.00	0.06667
60	信越情報	192.168.10.150	Thu	May	30	10:55	11:09	0:13	0.01	0.21667

資料1 専門公開講座の要望

平成25年度 どこカレ公開講座アンケート裏面 設問C,D集計 (メイト登録者の回答は不要)

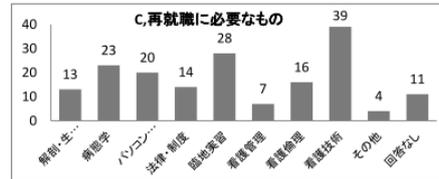
H26.1.10現在

C.休職期間の後、看護師として再就職を希望する場合に、必要と感じる学習・研修内容で該当するもの全てに○をお付け下さい。(複数回答あり)

講座名	解剖・生理学	病態学	パソコン関連	法律・制度	臨地実習	看護管理	看護倫理	看護技術	その他	回答なし
ジレンマ第1部	0	2	0	0	1	0	0	2	2	0
ジレンマ第2部	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
ELNEC-J	5	9	11	9	16	2	8	19	1	4
リスクマネジメント	3	3	5	4	3	4	6	10	0	0
フィジカル	4	8	4	1	8	1	2	7	1	4
合計(人)	13	23	20	14	28	7	16	39	4	11

<具体例>

看護技術	<ul style="list-style-type: none"> 採血、点滴、医療機器の取り扱い 点滴、モニター等の機器 点滴 採血、筋注、静脈注射
その他	<ul style="list-style-type: none"> フィジカルアセスメント、現在トピックになっていること ワークライフバランスに関すること 最近の治療、検査法

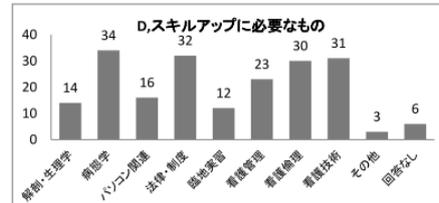


D.臨床看護師のスキルアップの為に必要だと感じる学習内容で該当するもの全てに○をお付け下さい。(複数回答あり)

講座名	解剖・生理学	病態学	パソコン関連	法律・制度	臨地実習	看護管理	看護倫理	看護技術	その他	回答なし
ジレンマ第1部	1	3	1	3	0	1	1	3	1	0
ジレンマ第2部	0	0	0	3	0	2	3	0	0	1
ELNEC-J	4	14	5	13	5	12	11	13	0	3
リスクマネジメント	1	5	6	11	2	5	11	8	2	0
フィジカル	8	12	4	2	5	3	4	7	0	2
合計(人)	14	34	16	32	12	23	30	31	3	6

<具体例>

法律・制度	<ul style="list-style-type: none"> 退院指導で使える社会資格
看護技術	<ul style="list-style-type: none"> 各科特有の技術 最近の新しい機材や器具の使い方
その他	<ul style="list-style-type: none"> フィジカルアセスメント、最近の治療、技術 専門的な知識、技術



今後、公開講座として実施して欲しいテーマ一覧

講座名	アンケート用紙に書かれていた内容
ジレンマ第1部	多職種で話せる内容。
ジレンマ第2部	倫理について。 看護師の知識力を高めるために何をすべきか。プライマリナーズの教育について。
ELNEC-J	在宅連携の仕組みや、ポイントについて。 がん看護について。 がん化学療法について。 看護倫理に関するもの。臨床以外の場で働いている看護師の話。 訪問看護や、退院支援と退院調整について。 クレーム対応、接遇、看護師のストレスマネジメントについて。 エンゼルケアについて。 死生学、看取りについて。 老年看護学の系統的研修。 感染症対策、災害時の看護について。
リスクマネジメント	がん化学療法看護、救急看護(トリアージ)、災害看護について。 看護と介護の連携課題等について。 関節拘縮予防に向けたポジショニングについて。 在宅支援や病院との連携、地域で支え合うことについて。 災害看護、救急看護について。 認知症の介護と対応、介護評価について。
院内マニュアル	看護研究の統計について。 死後の処置の方法について。
統計解析入門	アンケート調査、分析方法(SPSS)について。 心電図の読み方、循環器について。
フィジカルアセスメント	化学放射線療法、終末期看護、腹部聴診について。 人工呼吸器について。 心電図について。(3名) フィジカルアセスメント。(2名) 摂食機能について。 感染管理、医療安全について。 アサーティブコミュニケーションについて。 呼吸以外のフィジカルアセスメント。 腹部の音の聴き方について。

資料2- どこカレ通信 18号

第18号 2013 5/25
どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」では
看護師の学び直しを支援します。



皆様お元気でお過ごしでしょうか。
新緑がとてもきれいですね。
日に日に暖かくなり、外でからだを動かすのには
もってこいのこの季節、ちょっとウォーキングな
んかで心と体のリフレッシュなんていかがでし
ょうか。



平成 25 年度 どこカレ公開講座

昨年度は多数の皆様から公開講座に参加していただきありがとうございました。

参加された皆様のご意見・ご感想等から、今年度も以下の内容の公開講座を企画いたしました。

なお、今年度より技術指導・個別指導が含まれる講座につきまして、有料とさせていただきます。これからも、より一層の充実を図ってまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

臨床におけるシレンマの検討

6月15日(土) 14:00~19:00

講師: 真岡医院 院長 真岡真子先生

参加費: 無料

エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会

7月13・14日(土・日) 9:00~17:00

講師: 新潟県立看護大学准教授 酒井禎子他(ELNEC-J 指導者)

参加費: 4000円(資料・お弁当代金)

リスクマネジメント ~自立と制限の狭間で~

8月4日(日) 13:00~16:30

コーディネーター: 新潟県立看護大学准教授 原等子

(パネリスト交渉中)

参加費: 無料

インターネット検索技術入門

9月19日(木) 10:30~15:30

講師: 新潟県立看護大学教授 橋本明浩

参加費: 2000円(資料代金)

見易く使いやすい院内マニュアル作成入門

9月20日(金) 10:30~15:30

講師: 新潟県立看護大学教授 橋本明浩

参加費: 2000円(資料代金)

看護研究のための統計解析入門

9月21日(土) 10:30~15:30

講師: 新潟県立看護大学教授 橋本明浩

参加費: 2000円(資料代金)

臨地における多職種連携に関する勉強会

9月~10月頃(土) 日程調整中

参加費: 無料

呼吸のフィジカルアセスメント

11月30日(土) 13:00~16:00

講師: 新潟県立看護大学講師 飯田智恵

参加費: 1000円(資料代金)



市民公開講座(専門職対象)の
お知らせ

市民公開講座(専門職対象)では、
看護・医療・福祉分野の研究や実践に
関する新しい知見やトピックスにつ
いて著名な学識者あるいは先駆的な
活動を行っている方をお招きいたし
ます。

平成 25 年度は、NHK の「きょう
の健康」や「ゆうときネットワーク」
等でおなじみの東京都健康長寿医療
センター研究所 研究部長 新聞省二
先生をお招きすることとなりました。
テーマ: 高齢者の社会参加と

ヘルスプロモーション

日時: 10月18日(金)

18:00~19:30

なお、1週間前までに申し込んでください

新潟県立看護大学大学院
修士課程募集のお知らせ

平成 26 年度入学の大学院生の募集
を次のとおり行います。

1. 募集学科 看護学研究科
看護学専攻(修士課程)
 2. 募集人員 15名
 3. 試験日 平成 25 年 8 月 29 日(木)
 4. 試験会場 新潟県立看護大学
- ※出願期間等につきましては募集要項
をご覧ください。

〇問い合わせ先〇

新潟県立看護大学 教務学生課 教務係

Tel : 025-526-2811

URL : <http://www.niigata-cn.ac.jp>



連絡先: 新潟県立看護大学 看護研究交流センター(専門職員: 長谷川 受付時間: 平日 9:30~16:00)

〒943-0147 上越市新岡町 240 電話: 025-526-2822(直通・FAX 兼)

Eメール: nirin@niigata-cn.ac.jp ホームページ: <http://dokokare.nirin.jp/>

資料3- どこカレ通信 19号

第19号 2013/7/25

どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」では
看護師の学び直しを支援します。

暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。
この時期、「グリーンカーテン」や「すだれ」
などを使って暑さ対策をしている方々も
多いのではないのでしょうか。
適度にエアコン等を活用し、
今年もエゴで快適に夏を過ごしましょう。

近況報告

6月15日(土)、「臨床におけるジレンマの検討」というテーマで今年度第一回のどこカレ公開講座が開催されました。前半は、本学の小泉美佐子副学長より、医療倫理に関する基礎知識についてについて講演の後、グループに分かれて事例検討会が行われました。





後半は、箕岡医院院長・東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野客員研究員 箕岡真子先生をお迎えし、倫理的意決定の支援及び倫理的コンサルテーションについて講演をしていただきました。

参加者による積極的な意見交換が行われ、多くの方々が、改めて倫理について考えることの大切さを確認されています。



今後の公開講座

リスクマネジメント
～要介護高齢者の自立支援とリスク管理～
8月4日(日) 13:00～16:30
講演：小舘高原病院総看護師長 佐藤のみ子氏
パネリスト：医療安全管理者、認知症看護認定看護師など予定 参加費：無料

インターネット検索技術入門
9月19日(木) 10:30～15:30
講師：新潟県立看護大学教授 橋本明浩
参加費：2000円(資料代金)

見易く使いやすい院内マニュアル作成入門
9月20日(金) 10:30～15:30
講師：新潟県立看護大学教授 橋本明浩
参加費：2000円(資料代金)

看護研究のための統計解析入門
9月21日(土) 10:30～15:30
講師：新潟県立看護大学教授 橋本明浩
参加費：2000円(資料代金)

臨地における多職種連携に関する勉強会
12月頃(土)(日程調整中)
参加費：無料

高齢者の社会参加とヘルスプロモーション
(市民公開講座：専門職)
10月18日(金) 18:00～19:30
講師：東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長 新聞省二先生
参加費：無料

呼吸のフィジカルアセスメント
11月30日(土) 13:00～16:00
講師：新潟県立看護大学講師 飯田智恵
参加費：1000円(資料代金)

おしらせ

・新潟県立看護大学大学院では、平成26年度の看護学研究科看護学専攻(修士課程)の学生を募集しています。お問い合わせは、新潟県立看護大学教務学生課 教務係までお願いします。



連絡先：新潟県立看護大学 看護研究交流センター (専門職員：長谷川 受付時間：平日 9:30～16:00)
〒943-0147 上越市新南町 240 電話：025-526-2822 (直通・FAX兼)
Eメール：nirin@nigata-cu.ac.jp ホームページ：http://dokokare.nirin.jp/

資料4- どこカレ通信 20号

第20号 2013/8/25

どこカレ通信

新潟県立看護大学看護研究交流センター
「どこでもカレッジプロジェクト」
では看護師の学び直しを支援します。



相変わらず、暑い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか。
どこカレ通信もおかげさまで、今回第20号を迎えました。
これからも、皆様に様々な情報をお伝えしていきたいと考えておりますので何卒よろしくおねがい申し上げます。

近況報告

7月13日(土)・14日(日)の2日間の日程で、どこカレとJCAPとの共催で「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」が行われました。本講座は、参加募集後すぐに定員数となりましたが、JCAPのご厚意により幸いにも定員を増やしてもらうことができたため、参加者34名での開催となりました。
講演やグループワークなど盛りだくさんのメニューでしたが、受講者の皆さんは真剣ながらも和やかな雰囲気活発な議論が行われました。
「日頃行っている看護行為の意味を理論的に見直す機会になった」「困難な場面を共有したり、みんなで一緒に学んだ感じが良かった」などのご意見を多数いただきました。



今後の公開講座	市民公開講座のお知らせ
<p>☆只今下記の講座の参加を募集しております☆ インターネット検索技術入門 9月19日(木) 10:30~15:30 講師：新潟県立看護大学教授 橋本明浩 参加費：2000円(資料代金)</p> <p>見易く使いやすい院内マニュアル作成入門 9月20日(金) 10:30~15:30 講師：新潟県立看護大学教授 橋本明浩 参加費：2000円(資料代金)</p>	<p>第2回市民公開講座のお知らせ 高齢者の社会参加とヘルスプロモーション 10月18日(金) 18:00~19:00 講師：東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チームリーダー(研究部長) 新聞 省二先生 NHKの「きょうの健康」や「ゆうどきネットワーク」で寝たきり予防をはじめとする高齢者の健康づくりについてお話されていらっしゃる。 ☆入場無料ですが、講座1週間前までお申し込み下さい。</p>
<p>看護研究のための統計解析入門 9月21日(土) 10:30~15:30 講師：新潟県立看護大学教授 橋本明浩 参加費：2000円(資料代金)</p> <p>臨地における多職種連携に関する勉強会 12月頃(土)(日程調整中) 参加費：無料</p> <p>呼吸のフィジカルアセスメント 11月30日(土) 13:00~16:00 講師：新潟県立看護大学講師 飯田智恵 参加費：1000円(資料代金)</p> <p>☆各講座とも定員になり次第、締め切らせていただきます</p>	<p>大学院看護学研究科 入試相談会</p> <p>大学院看護学研究科(修士課程)の入試相談会を開催します。大学院の入試や修学に関する相談に教員がお応えします。興味のある方、高度な実践能力を身につけたいとお考えの方、この機会にご参加ください。 日時：平成25年9月28日(土) 場所：新潟県立看護大学 ※なお相談会当日は2つの研究発表会(上越地域看護研究発表会、地域課題研究発表会)が行われていきますので併せてご参加ください。 ☆問い合わせ先 新潟県立看護大学 教務学生課教務係 TEL: 025-526-2811 メール: kyoumu@niigata-cn.ac.jp</p> 

連絡先：新潟県立看護大学 看護研究交流センター(専門職員：長谷川 受付時間：平日9:30~16:00)
〒943-0147 上越市新南町240 電話：025-526-2822(直通・FAX兼)
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp ホームページ：http://dokokare.nirin.jp/

資料5- どこカレ通信 21号



さわやかな秋晴れの日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。読書だけでなく勉学の秋、公開講座の様子をご覧いただき、益々の刺激になれば幸いです。これからも皆様のご希望に添えますよう、様々な情報をお伝えして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

近況報告

8月4日(日) どこカレ公開講座「リスク・マネジメント～要介護高齢者の自立支援とリスク管理～」と題して、国立病院機構 小諸高原病院 総看護師長 佐藤るみ子氏より基調講演をいただきました。その後のパネルディスカッションでは、上越地域医療センター病院 医療安全管理者 水野智美氏、JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院 認知症看護認定看護師 中川かおり氏、新潟労災病院 認知症看護認定看護師 村田悦子氏から、それぞれの体験を通して現場の状況を紹介していただきました。参加者は、自身が抱えているジレンマが実は多くの施設でも抱えていることがわかり、具体的な取り組みや対策などの情報を得たことで、活発な意見交換ができました。

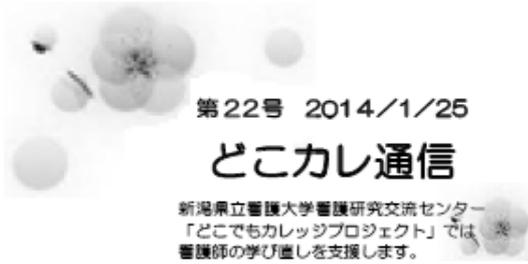


9月19日(木)～21日(土)の3日間に亘り、本学の橋本明浩教授を講師として、どこカレ公開講座が開講されました。1日目は「インターネット検索技術入門～見易く管理しやすい病院紹介のホームページの作成～」と題して検索技術の説明がありました。参加者からは基本的なことが学べ、今後活かしていけるとのご意見をいただきました。2日目の「見易く使いやすい院内マニュアル作成入門」は、必要な情報をすぐに見つけられるマニュアル作成を目指して行われ、参加者は新しい発見がたくさんあり有意義な時間を過ごしました。3日目「看護研究のための統計解析入門」と題して、実際の看護研究の例をもとに学び、難しかったが良かったとのご意見が寄せられました。

<p>今後のどこカレ公開講座</p>	<p>本学教員と一緒に研究をしませんか !!</p>
<p>「呼吸のフィジカルアセスメント」 11月30日(土) 13:00～16:00 講師：新潟県立看護大学講師 飯田智恵 参加費：1000円(資料代金) ☆定員になり次第、締め切らせていただきます</p>	<p>「平成26年度 地域課題研究」公募中 日常業務の看護ケアで発想する疑問などを研究的視点で捉え、仲間を誘って(1人でもOK)本学教員と共同で研究に取り組んでみませんか！ そして、研究的思考を養いつつ職場の活性化に繋げて行きましょう！</p>
<p>平成26年度 大学院生募集</p>	<p>*公募期間 10月8日(火)～</p>
<p>大学院で高度な実践能力を身につけませんか？ 2月入試 事前面談期間：11月7日(木)～12月10日(火) お問い合わせ：新潟県立看護大学 教務学生課 教務係</p>	<p>12月27日(金) 正午必着 *10万円を限度に助成金ができます。</p>

連絡先：新潟県立看護大学 看護研究交流センター(専門職員：長谷川 受付時間：平日 9:30～16:00)
〒943-0147 上越市新南町 240 電話：025-526-2822(直通・FAX兼)
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp ホームページ：<http://dokokare.nirin.jp/>

資料6- どこカレ通信 22号



新しい年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。昨年中は皆様方のご協力のもと、お陰様で計画通りにどこカレ通信の発行や公開講座を開催することができました。昨年を締めくくった公開講座の様子を掲載いたしました。今年も皆様のご希望に添えますよう努力してまいります。本年もよろしくお願いいたします。

近況報告

11月30日(土) 本学成人看護学の飯田講師により、どこカレ公開講座「呼吸のフィジカルアセスメント」が開講されました。

大変好評で定員を上回る34名の方が参加いたしました。看護職の方々がほとんどでしたが他職種の方も参加され、非常に良かったとの回答が多数をいただきました。具体的な意見として、「呼吸音の違いがはっきりわかった。聴くポイントを知った。」「呼吸音の聞き分けが思うようにできず、判断に悩むことが多くありましたが、講演を受け、少し分かった気がします。」また「対象者の異変に早期に気づける一手段として良い勉強ができた。」など講義だけでなく演習との二本立てがより理解を深め、すぐに使える良い経験になりました。



多職種連携合同研修会(どこカレ公開講座)のご案内

「地域医療・包括ケアの未来を拓く多職種連携 in 上越」

日時：3月8日(土) 13:30~16:45
 場所：上越市市民プラザ 第1会議室
 上越市土橋 1914-3 TEL:025-527-3611
 定員・参加費：90名・無料
 申込み：2月28日(金)までに
下記の連絡先にお申し込みください。



上越地域の現状と先進的な実践例から多職種で地域医療を担う方法、退院支援と多職種連携のあり方についてみんなで知恵をしぼりましょう。

- 第一部 退院支援の充実に向けて
1. 上越地域の実態調査の概要について
見える化作業実行委員会
 2. 退院支援の現状・課題と支援の充実に向けて
ケアマネジャーの立場
病院の立場

飯塚俊子(上越地域振興局健康福祉環境部地域保健課)
 山岸義明氏(上越地域居宅介護支援事業推進協議会)
 古澤弘美氏(県立中央病院地域連携センター)

第二部 地域医療を担う多職種連携の課題

【パネルディスカッション】

- コーディネーター 新潟県立看護大学准教授 原 等子、講師 藤川あや
- パネリスト 地域医療の実践からの視点 揚石義夫氏(揚石医院院長)
 地域包括支援センターからの視点 並木幸江氏(さくら聖母の園地域包括支援センター)
 介護支援専門員としての視点 新保 努氏(上村医院介護支援室：魚沼市)
 病院訪問看護：県立津川病院での経験から 清塚美希氏(県立十日町病院)

主催：上越地域在宅医療連携協議会(他職種連携推進のための研修企画委員会)、
 上越地域振興局健康福祉環境部、新潟県立看護大学看護研究交流センター



「どこでもカレッジプロジェクト」メイト会員募集中!!【登録は下記ホームページへ】

会員登録するとインターネットを利用した学習、公開講座などの学習プログラムをご利用いただけます。

連絡先：新潟県立看護大学 看護研究交流センター(専門職員：長谷川 受付時間：平日 9:30~16:00)
 〒943-0147 上越市新南町 240 電話：025-526-2822(直通・FAX兼)
 Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp ホームページ：<http://dokokare.nirin.jp/>



地域課題研究開発部門

石田和子 高柳智子 藤川あや 岡村典子 北村千章
新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域課題研究開発部門

I. 活動概要

1. 平成 25 年度上越地域看護研究発表会の開催

上越地域の看護職の連携を図る目的で、新潟県立看護大学看護研究交流センターと新潟県上越地域振興局健康福祉環境部の共催で開催され、97名の参加者であった。平成 25 年度は第 1・第 2 ホールで行われ、示説発表を行わず口頭発表とした。

平成 24 年度に引き続き上越地域の各病院や地域に所属する看護職員が臨床の場で取り組んできた研究発表に対して活発な意見や質問がされ「上越地域の看護の実践を知ろう」というテーマの目的を達成することができた。

1) 発表プログラム

日時：平成 25 年 9 月 28 日(土)

場所：新潟県立看護大学 第 1・第 2 ホール

(1) 第 1 群 老年看護 9:35～10:15

座長 岩崎 昭徳(上越総合病院)

研究発表

- 1-1 要介護高齢者の退院調整を難航させる要因
○梅澤 和美(新潟労災病院)

研究発表

- 1-2 口腔乾燥が著明な経口摂取できない患者の口腔ケア
～湿潤剤を使用しての効果～
○渡邊 マキ(知命堂病院)

研究発表

- 1-3 口腔清拭における感染予防の介護職員の意識調査
○北村 京子(けいなん総合病院)

実践報告

- 1-4 「経腸栄養開始前チェックリスト」の作成と
King's Stool Chart の活用状況
○葛西 ひろみ(上越地域医療センター病院)

(2) 第 2 群 精神保健 10:15～10:45

座長 関 由美子(けいなん総合病院)

研究発表

- 2-1 医療観察法病棟における社会復帰を促す効果的な
介入方法についての検討
～過去 6 年間の遡及的データを用いた阻害要因の分析～
○坂野 裕和(さいがた病院)

研究発表

- 2-2 A 病院におけるストレス調査
～職業性ストレス簡易調査を用いて～
○渡辺 忠雄(川室記念病院)

研究発表

- 2-3 精神科看護師の患者に対するコミュニケーションの実態調査
○石田 美喜子(三交病院)

(3) 第3群 看護教育・看護管理 10:55～11:15

座長 飯塚 俊子(上越地域振興局健康福祉環境部)

研究発表

- 3-1 精神科病棟に勤務する看護師の看護技術に関する不安
～看護師歴10年以内の看護師を対象にして～
○池田 縁(さいがた病院)

取組紹介

- 3-2 看護業務の改善
～オムツ交換回数の削減を通して～
○筑山 芳江(県立妙高病院)

(4) 第4群 成人看護 11:15～11:55

座長 北村 千章(新潟県立看護大学)

研究発表

- 4-1 C P A P装着のアドヒアランスに及ぼす要因を探る
～アンケート調査からの考察～
○宮川 敬子(上越総合病院)

研究発表

- 4-2 人工膝関節全置換術後の患者の自宅での生活行動における困難と対処
～冬期の生活に焦点をあてて～
○藤井 喜久子(新潟労災病院)

研究発表

- 4-3 脳梗塞患者の退院後の生活状況に影響する要因と退院指導への要望
○黒田 美樹(新潟労災病院)

その他

- 4-4 A病院におけるストーマ外来の現状
○林 智子(県立中央病院)

2) 上越地域看護研究発表会実行委員会の活動

上越地域振興局健康福祉環境部、新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究開発部門(以下大学とする)が実施主体となり、上越地域の病院、保健所、市役所等の看護職員による実行委員会を編成、運営した。企画実行委員会は、3回(反省会、次年度計画を含む)開催し(平成25年6月28日、8月28日、11月14日)看護研究発表会実施に向けて、各病院・市町村などの状況を考慮して、テーマや演題募集について検討を重ねた。

【平成25年度上越地域看護研究発表会 実行委員会】

(1) 第1回実行委員会：平成25年6月28日(金)16時～17時

- ・上越地域振興局福祉環境部副部長よりご挨拶

研究発表会を通じて、ひとつの輪が広がってきている感じがする。今後どういう方向にむいていくのか楽しみである。今後も継続して実施していくために、各施設間の連携を大切にしていきたい。

<議事>

1.看護研究発表会企画について(担当：井上課長代理)

- 実行委員会は今年度も年3回開き、準備から評価までを行い、来年度につなげていく。
- 昨年度から演題の種類を4項目に分けて募集している。昨年は、各施設からのユニークな取り組みも発表され、分類が明確でよかったので、継続していきたい。
- 倫理的配慮については、日本看護協会論文集投稿規定に添って提示したので、発表原稿の中にきちんと記述してもらえるように依頼していく。
- 発表形式については、会場の都合上、ポスター掲示ではなく口演形式で行う。
- 平成25年度上越地域看護研究発表会の内容については、7月上旬に起案と発信をし、演題募集をする。今年度の演題募集締め切りは8月16日とする。

2.今後の進め方・役割分担

- 発表時間は、発表と質疑応答を含めて、10分間とする。
- 発表会場は、第1・2ホール同時進行で発表を行い、開会と閉会は、1会場に集合するよう案内する。
- 当日、各会場までの案内表示を行う(昨年、会場が分からない人が多かった)。
- ポスターの配布については、保健所から例年通りに、電子媒体で各施設に送り、開業医へは、医師会への連絡ツールを使ってポスターを配布し宣伝をする。
- 展示ブースの業者については、もう少し検討が必要であり次回の会議で検討する。
- 当日の弁当注文については、今年度は実施しないが、今後は検討していく。
- アンケートの配布については、午前受付と午後受付でそれぞれ配布し、回収率を上げるように、声掛けをする。

(2) 第2回実行委員会：平成25年8月28日(水)16時～17時

議題：看護研究発表会の実施について

1.発表演題の応募状況

- 13演題を受け付けた。(昨年は、16演題だった)
上記演題数の場合、一会場での実施が可能であることが確認された。よって、ホール1と2を開放し一会場で行うこととなった。

2.プログラム及び抄録集の作成について

- オリエンテーションは、9時30分の開会前に行い、開会の挨拶は学長(3分)、健康福祉環境部副部長(2分)で計5分となった。また、閉会の挨拶は、例年通り大学交流センター長に依頼することとなった。
- 抄録は、大学の教員で査読を行い、発表者からの加筆・修正後、長谷川(大学)の方で250部印刷することとなった。印刷の際は、表紙、裏表紙を作成し、裏表紙には実行委員の名簿を載せることとなった。

3.研究発表会当日の役割分担について

役割	担当者	
総合司会	石田(大学)	
座長	北村(大学)：成人	井上(福祉環境部)：看護管理

	関(けいなん)：精神	岩崎(上越)：老年
タイムキーパー	金子(西城)	岡村(大学)
会場 IT 担当	藤川(大学)	
受付※	高柳(大学)	竹之内(労災)
会場担当	他全員	

※学生アルバイト 4 名；大学で確保する

4.今後の進め方について

- 発表者への案内文に、「当日の抄録の訂正発言、および資料等の配布は無し」「発表時間の厳守」について文面を載せることとなった。
- 発表時の呼び鈴は、7分、8分ともに一打とし、パワポの文章は使用ソフトのみを表記することとなった。
- 発表会案内のポスターは、昨年度同様の施設に送り、各実行委員は自身の施設にて掲示してあるかどうかを確認することとした。

5.その他

- アンケートは、昨年度と同様の内容で配布することが決まった。
- 当日の参加業者については、正式名称を確認し、抄録集に掲載することとなった。
- 大学の売店が当日開店可能かどうか確認することとなった。

(3) 第 3 回実行委員会：平成 25 年 11 月 14 日(木)

1. 看護研究発表会の反省・評価について

1)平成 25 年度実施要項について

- マイクラナーの係が必要である。
- あいさつの時間をとるために開始時間を早めた方がよい(9:20 頃)。
- 後見室を設置した方が、質問しやすい参加者もいるのではないかという意見があった。
- 上越市から発表時間が 8 分と短く、市の研究発表するのは難しいという意見があった。

2)発表会のテーマについて

- テーマは良いと思う。
- キャッチコピーをつける前に大学に相談してほしかった。

3)実施日時、演題募集等日程について

- 看護協会の催しと重なり参加者数が減少したとも考えられる。事前に看護協会に相談する必要がある。
- 演題が公表される前に勤務表が決まるので参加したくてもできないことがある。演題募集を 3 月末にすることを検討する。
- PR 方法は大学でカラーポスターを作成し、交流センターの他部門の事業で各施設に案内を送るときに同封する。
- ポスターには地域課題研究発表会についても記載する。
- 日報かわらばんに案内を掲載した方がよい。
- 開業医の看護職に PR することが必要。来年度は保健所から医師会の定期便を使い案

内を出した方がよい(300程度)。

4)発表会の内容について

- 精神科の内容は難しいという意見があったが、精神科の看護師から分かりやすいという評価があった。
- 発表をして分かりやすく伝えることの大切さを学んだ。

2. 来年度以降の開催について

- 実施予定日 平成26年9月20日(土)9:30前に開始する。
- 大学から参加者全員にお茶を配る予定がある。
- 引き続き業者を入れる。

3) 広報活動

上越地域研究発表会の広報活動は、以下のように実施した。

- (1) 保健所が主体となり、ポスター、チラシ、発表会通知文を作成し上越地域の病院、保健所、市役所、看護大学などに配布した。
- (2) FM上越にて「平成25年度上越地域看護研究発表会・平成24年度地域課題研究発表会」について宣伝を行った。(2013年9月28日)
- (3) 発表会の様子が上越タイムスに掲載された。(2013年9月17日・9月27日)
- (4) 発表会の様子を新潟県立看護大学看護研究交流センターHPに掲載した。
- (5) 発表会の様子を新潟県立看護大学広報誌「ポルティコの広場(24号)2014年1月」に掲載した。

昨年同様に広報活動を実施し、上越市の病院に研究発表をするように依頼を行い、多くの上越地域の看護職の参加を図って来た。

2. 平成24年度地域課題研究発表会開催

1)発表プログラム

日時：平成25年9月28日(土)13:00～14:30

◆研究発表

<第1群> 座長 岡村 典子(新潟県立看護大学)

1. 繰り返し入院しながら化学療法を継続している進行大腸がん患者が受けるサポートと対処行動
長岡赤十字病院 海發 愛希 13:05
2. 院内ケアスタッフの口腔ケア意識向上への取り組み
新潟県立小出病院 上原 喜美子 13:15
3. 重症心身障害児者に対して唾液分泌抑制効果のあるスコポラミン軟膏の使用
独立行政法人国立病院機構新潟病院 倉部 治子 13:25

4. 施設における抗がん剤の被曝に対する医療者の意識と課題 —多職種による実態調査を試みて—

新潟県厚生連長岡中央総合病院 大岩 愛 13 : 35

<第2群> 座長 藤川 あや(新潟県立看護大学)

5. 公立A病院における在宅酸素療法導入後の指導の検討 —継続看護システムの構築—
新潟県立中央病院 木原 圭美 13 : 55

6. 慢性期病棟で長期入院する精神疾患患者への生活時間の質に関する研究 —看護師による病棟レクリエーションを通して提供されるケアに焦点を当てて—

独立行政法人国立病院機構さいがた病院 奥山 勤武 14 : 05

7. 長期入院中に慢性腎疾患患児が抱く思い —面接調査による患児の語りから—

独立行政法人国立病院機構新潟病院 小林 美恵子 14 : 15

3. 平成25年度 地域課題研究の申請状況

新潟県内の保健・医療・福祉に携わる看護職を対象に公募した地域の看護実践での研究課題について8件の応募があった。

申請代表者	所属	研究テーマ
鈴木 亮	独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター	精神科病棟に勤務する看護師の「熟練(度)」の構造とその実態
関 栄子	新潟県立小出病院	誤嚥性肺炎予防に向けた口腔ケア魚沼地域連携への取り組み
小川 知恵	新潟厚生連 長岡中央総合病院	乳がん患者の夫が抱いているおもいに関する研究
高橋 栄子	新潟県立中央病院	在宅酸素療法患者の継続看護システムの運用と評価
小林 奈緒子	上越市役所 三和区総合事務所	生活習慣病予防のための効果的な保健指導における保健師の能力
片山 圭子	栃尾郷診療所 居宅介護支援事務所	医療ニーズのある利用者を介護する主介護者の介護負担に関する研究
富井 美穂	新潟県十日町 地域振興局健康福祉部	在宅ALS患者を受け持つ介護支援専門員の心理的負担を軽減するための保健師の支援
池田 圭子	新潟労災病院	腹膜透析を行う高齢者の家族の負担

〈活動内容〉

1) 公募要領の作成

公募要領、研究計画書、研究計画書記入要領、研究選定基準、研究組織変更届を作成し活用した。

2) 広報活動

新潟県内の保健・医療・福祉関係(約 500 か所)に公募要領を郵送するとともに、新潟県立看護大学看護研究センターHP に掲載し地域課題研究公募の広報活動を実施した。

3) 内定通知の発送

選考委員を選定し、3月下旬に研究代表者へ内定通知を発送した。

4.平成 26 年度地域課題研究の申請状況

本年度は 9 件の研究課題が提出され、審査を行っている。

II. 平成 25 年度の評価と今後の展望

上越地域看護研究発表会は、前年度は同様に地域課題研究発表会と同時に土曜日に開催した。午前が上越地域看護研究発表会、午後に地域課題研究発表会を行い、参加者総数は前年と比較して少なかった。また、前年度同様に自分の施設の発表のみの参加が見られた。これは、上越地域看護協会行事と重なり、参加者が少なかったことから次年度は、上越地域看護協会など地域の行事を把握した上で日程を決定した。

今年度から業者の協力を得て展示ブース、大学院のブースを設けた。参加人数は少なかったが展示ブースは盛況であった。次年度も展示ブースを設けていきたい。

地域課題研究については、新潟県内の保健・医療・福祉の看護職から 9 件の応募があった。今年度は、看護職が応募しやすい期間の設定として上越地域課題研究発表会に合わせて公募した。公募締切りまでには 6 件の応募があった。しかし、目標数に及ばなかったため 1 か月間公募の延長を行った。次年度は公募期間の設定は同様に地域課題研究発表会に合わせて公募し、さらに公募活動として地域の新聞などに掲載するなど検討し地域の看護職者の研究の取り組みを発展支援していきたい。

資料 1 - 平成 25 年度上越地域看護研究発表会アンケート結果

参加者：97 人(実行委員、事務局含む) アンケート回収数：55 部(回収率 56.7%)

1. 運営について

1)会場の広さについて(一つに○)

1. ちょうど良かった 47 2. もっと広い会場が良かった 0 3. もう少し狭い会場が良かった 8

2)プレゼンテーション機器(マイク、スクリーン)等の配置について(いずれかに○)

1. 適切だった **55** 2. 改善すべき点がある **0**

3)発表会の案内方法について(一つに○)

1. とてもよい **17** 2. よい **34** 3. より工夫が必要 **3**

(→3を選んだ方へ)どんなところに工夫が必要でしょうか

- *具体的に ○案内時に発表項目の周知がされていたほうが良い
○学生や在宅看護師への周知があるとよい

2. 発表について

1)発表時間について(いずれかに○)

1. 時間は適切だった **48** 2. 時間に改善、工夫が必要だった **7**

(→2を選んだ方へ)

- *具体的に ○時間を守った発表を望む。発表者として心がけていただきたい。
○8分という時間が守られない方が多くいたので、一人8分が適切か疑問。

2)質疑応答の時間について(いずれかに○)未記入 **2**

1. 時間は適切だった **45** 2. 時間に改善、工夫が必要だった **8**

(→2を選んだ方へ)

- *具体的に ○一人の発表時間だったので、時間の取り方を発表時間と併せて検討されるとよい
○時間がおしていた場合、必ず質問しなければならないのでしょうか?(座長の質問は簡潔をお願いします。)
○次の発表があるため質問時間が少ないように感じた。
○もう少し長く意見交換し、様々な見方を知りたかった。
○3分くらいほしい。

3. 発表内容について(一つに○)

1. わかりやすい **39** 2. ややわかりやすい **15** 3. やや難しい **1** 4. 難しい **0**

→精神看護分野は難しく感じた。

4. プログラム全体について(一つに○)

1. とてもよい **20** 2. よい **33** 3. より工夫が必要 **1**

(→3を選んだ方へ)

- *具体的に ○演題が多いため急ぎ足だったように感じる。
○時間がおしてしまったようなので、発表者側なのか、時間なのか考慮が必要かと思った。

5. 発表会全体について(一つに○)

1. 満足 **31** 2. やや満足 **24** 3. やや不満 **0** 4. 不満 **0**

6. 発表者にフィードバックしますので、発表内容についてのご感想をお聞かせください。

- 精神看護の演題が多く興味深かった。
- 医療観察法病棟について理解不足もあり聞いていて難しかった。どこの病院でも退院が難しい患者がいますので、おきかえて考えることで参考になりました。他の発表はどれも身近で参考になるものでした。
- 業務改善(妙高病院)については当院でも活用しデータ化してみたいと思った。
- オムツ交換回数削減について、パットを当てることによる皮膚とのずれが問題として残ると思います。患者の排尿パターンを調査して時間を設定することも大切だと思います。また、パットを当てずに使用できるオムツもあります。それも検討できるとよいかと思いました。
- 2-2 どの病院でもストレス調査や癒やしのポスターを実施できそう。参考にしたい。
- 1-2 口腔ケアの改善・検討、その病院に合った形で展開し、改善が期待できそう。1日1回の口腔清掃は抵抗があるが。
- ストーマを造設した患者は年々増えていくと思われまます。ストーマ外来だけでは在宅患者や施設の患者までは支援できない(難しい)現状があると思います。訪問看護の看護師や施設の看護師などの教育を充実させていくことで上越の看護の質が向上すると思います。頑張ってください。
- 統計の分析は適切であると思いますが、解釈に若干適切でない発表がみられました。また、研究内容とタイトルが合致していない研究もありました。ご検討ください。
- 様々な種類の研究があり、内容もわかりやすかったので、とても勉強になりました。
- 各施設での取り組み、業務改善などの発表がもっと多くあると良いと思いました。
- 日々の業務がある中、研究に取り組みれご苦労様でした。看護大の先生の手も借りて、ますます取組が増えると良いと思います。
- それぞれの領域でたくわえた技術・知識の向上と努力がうかがえ、良い機会になりました。

7. 発表会全体をとおしてご意見がありましたらお聞かせください。

- 上越地域の多くの病院が貴重な研究発表をしているにもかかわらず、会場内はガラガラとしていて残念でした。他の病院が何に疑問を持ち、どのように対応しているかを学ぶ良い機会なので、たくさんの方が来てくれような場にしていきたい。
- どの発表も身近な問題、日々行っている業務に関連したもので、何だかいつもモヤモヤした不安?これでいいのかと思っていたことが、すっきり晴れた気持ちになれました。ありがとう。
- 各施設での実践報告を今後も続けてほしいと思います。
- 他病院の研究発表を聞くことで勉強できた。
- 出席者がより質問や意見を述べて、内容の理解や全体のムードの盛り上げが必要。
- 活発な質疑がほしい。
- 自分も含め質問が出なくて、座長にご苦労をかけたと思います。

- とても良かったと思います。
- 室温調整を配慮してほしい。少し寒かったのだ。
- お互いの看護について語り合う機会があることは良いと思います。運営には苦労があると思いますが、これからもこのような発表のチャンスがあることはとてもありがたいです。ですので継続をお願いします。
- 以前より出席する方が少ない感じでしたが、何か変わったところはあったのでしょうか？
- 発表内容は良いのですが、パワポの資料もいただけるとありがたいです。
- 会場・内容なども興味深いものがあり、よい機会になりました。聴く側の人数が少ないのは残念であると思います。
- 看護職歴が長いのですが研究発表を聞くことが億劫になりがちでしたが、参加して医療は常に進んでいることを痛切に感じられました。現在、精神科に勤務しております。旧職場の仲間とも会えて良かった。若い看護師の少ない現在、頑張ってください。

資料 2 - 平成 24 年度地域課題研究発表会アンケート結果

参加者 43名 アンケート回収数 30枚

1. 運営について

1) 会場の広さについて

- ① ちょうど良かった・・・・・・・・・・ 18名
- ② もっと広い会場が良かった・・・・・・ 0名
- ③ もう少し狭い会場が良かった・・・・ 11名 →ご意見：午前には引き続きなので仕方ない？
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名

2) プレゼンテーション機器(マイク、スクリーン)等の配置について

- ① 適切だった・・・・・・・・・・・・・・・・ 29名
- ② 改善すべき点がある・・・・・・・・・・ 1名
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0名

【②を選んだ方へ 具体的に】

- スクリーンは中央にももう一つほしい。

3) 発表会の案内方法について

- ① とてもよい・・・・・・・・・・・・・・・・ 10名
- ② よい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14名
- ③ より工夫が必要・・・・・・・・・・・・ 3名
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3名

【③を選んだ方へ 具体的にどんなところに工夫が必要でしょうか?】

- ターゲットを絞って、あるいは広げて案内方法も検討してほしい。
- 午後の部の案内は、午前のようにあったのでしょうか。

2. 発表について

1) 発表時間について

- ① 時間は適切だった・・・・・・・・・・ 25名
- ② 時間に改善、工夫が必要だった・・ 4名
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名

【②を選んだ方へ 具体的にどの程度なら良いでしょうか?】

- 演題も多くて大変ですが、発表の時間を長くしてほしい。
- 10分程度。
- 6題の発表であれば、もう少し長めに発表時間をとり、研究内容がもう少し分かる良かった。
- もう少し長い発表時間に。

2) 質疑応答の時間について

- ① 時間は適切だった・・・・・・・・・・ 27名
- ② 時間に改善、工夫が必要だった・・ 1名
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名

3. 発表内容について

- ① 分かりやすい・・・・・・・・・・ 16名
- ② やや分かりやすい・・・・・・・・・・ 10名
- ③ やや難しい・・・・・・・・・・ 2名
- ④ 難しい・・・・・・・・・・ 0名
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名

4. プログラム全体について

- ① とてもよい・・・・・・・・・・ 13名
- ② よい・・・・・・・・・・ 15名
- ③ より工夫が必要・・・・・・・・・・ 0名
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名

5. 発表会全体について

- ① 満足・・・・・・・・・・ 13名
- ② やや満足・・・・・・・・・・ 15名
- ③ やや不満・・・・・・・・・・ 1名
- ④ 不満・・・・・・・・・・ 0名

無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名

6. 発表者にフィードバックしますので、発表内容についてのご感想をお聞かせください。

- 前段階の文献検索が浅いと思われるもの、プレテストの不足のもの、いくら途中経過とはいえ、発表するには不足すぎるものがあったと思う。素晴らしいものもちろんあり、研究者によってレベルが違うのは当たり前だが、選考基準がどうなのか。
- グラフの作成など、工夫もあると良い。
- 研究や取り組みを、発表に向けて努力したことがわかる発表でした。
- 6席のさいがた病院の方へ 慢性期の患者さんはなかなか参加したがないこともあり、今のレクに患者の参加状況や看護者の関わり方がどうなのかが分からないので、他を見学してどういう方向でというのが具体的に分かると良いと思った。
- ②上原さん 口腔ケアの意義について、またケアシステムの構築について勉強になりました。

7. 発表会全体を通してご意見がありましたらお聞かせください。

- アンケートで参加者の職種等も聴取してはいかがでしょうか。
- 時期としてはいい季節ですが、上越地域では保育園の運動会の時期です。調整は難しいことと思いますが検討を…。(参加者がとても少なく感じましたので…。)
- 抄録が小さく見づらかったです。とっってもよい発表なので、抄録から後日読み取れるものにしてもらえるといいと思いました。
- 午前から参加しても会場周辺(周辺図)のことが不案内なので、特に昼食をとる場所がありません。
- 多くの演題を聞くことができ、明日からの仕事にやる気がもらえました。ありがとうございました。
- パワーポイントの印刷でよかったが、もう2枚くらいあると良いかと思います。

I. 特別研究部門の4年間と今後

杉田 収 小泉美佐子 平澤則子 水口陽子 酒井禎子 高林知佳子 永吉雅人
山田真衣 小林綾子 樺沢清文

1. メディカルグリーンツーリズム(メディカルGT)の経過

1)組織

平成 22 年春の本学渡邊学長と泉田県知事との間で北陸新幹線の開業を見据えた上越地域の活性化をめざした事業が話され、その場でメディカル GT 事業が初めて学長の発想で打ち出された。それを受け平成 22 年 4 月からメディカル GT を担う組織として、新潟県立看護大学看護研究交流センターに特別研究部門が設置された。大学教員・事務局の委員の他に、翌年 2 月から学外の委員(学外委員)を加え、総勢 18 名で活動が始まった。

その後事業の経過と共に教職員の転勤・転出等があり、さらに学外委員の任務は平成 24 年度に終了し、順次新たな関係者がオブザーバーとして参加した。学外委員・オブザーバーの詳細は末尾に掲載した。

2)初期の活動

メディカルGT事業の活動は上越地域出身の首都圏在住者に対するニーズ調査から始まり、その調査から ①健康チェックコース ②健康改善・リフレッシュコース ③介護準備・学習コース ④介護付き旅行コースの 4 種類が考えられた。いずれのコースも「メディカル」を意識して考えられ、「健康改善・リフレッシュコース」はアンケートからのニーズに直接対応したコース内容で組まれた。一方「健康チェック」、「介護準備・学習」、「介護付き旅行」の各コースはニーズ調査からさらに先の需要を見越したコース設定になった。内容の検討が進む過程で、「介護付き旅行コース」は地元旅行業者が介護付き旅行者の受け入れが可能になったことからメディカルGTから外された。

3)メディカルGT事業についての学内議論

手元のパソコンで「メディカルグリーンツーリズム」のインターネット検索を行うと、情報はすべて新潟県立看護大学からの発信である。このようにメディカルGT事業はオリジナリティのある事業であったが、それ故に看護研究交流センターの運営会議や部門会議では「大学が営利目的の旅行会社と似たような仕事をする意味は何か」との議論が度々あった。それらの議論を踏まえて前記の「健康」「介護」のキーワードを含む4コースが考えられ、さらに「大学が果たすべき役割」を常に考えながら事業を展開することになった。具体的には妙高市から「妙高高原での森林歩きが健康に良い」ことを証明するエビデンスを看護大が出して欲しいとの意向が伝えられ、「健康改善・リフレッシュコース」でのリラックス効果を科学的に評価する調査研究が始まった。

4)森林歩き(妙高高原)のリラックス効果を評価

「健康改善・リフレッシュコース」のリラックス効果の評価に、唾液アミラーゼの活性値測定と POMS(Profile of Mood States)調査が平成 23 年から 25 年の 3 ヶ年続けて行われた。妙高高原のセラピーロードを歩くプログラムに「森林セラピー」「ノルディックウォーキング」

「気候療法ウォーキング」の3種類があった。それぞれのプログラムから得られた知見の現状は、① 妙高高原で行われる前記のどのプログラムにもリラックス効果の傾向が認められた ② 「森林セラピー」は運動の要素が少ないために、ほぼ誰にでもリラックス効果が期待できた ③ 「ノルディックウォーキング」は運動の要素が少し入るので、体力のある高齢者にリラックス効果が期待できた ④ 「気候療法ウォーキング」はかなり歩くので、通常の高齢者の体力や肥満度により、リラックス効果の得られる人と得られない人に分かれた。

平成23年の「健康改善・リフレッシュコース(妙高高原)」のリラックス効果は論文雑誌「医学と生物学156(4): 212-217 2014」にまとめられ、平成24年分は論文投稿準備中であり、平成25年分はデータ整理中である。また看護大学が地域の方々と連携して始めたメディカルGT事業については「日本福祉のまちづくり学会」で3回報告された。第14回(堺市)2011. 第15回(北九州市)2012. 第16回(仙台市)2013.である。

5)モニターツアーの実施と新たな調査研究の開始

(1)モニターツアーの実施経過

「介護付き旅行コース」以外の ①健康チェックコース(酒井、小林担当) ②健康改善・リフレッシュコース(水口、山田担当) ③介護準備・学習コース(永吉、城戸担当)のモニターツアーが平成23年に始めて実施された。関東・関西を始め、上越地域から3コース合わせて24名の参加を得た。平成24年は、応募者が極端に少なかった「健康チェックコース」は中止され、残りの「健康改善・リフレッシュコース」は妙高市と連携し、参加者の意見を取り入れブラッシュアップされた新たなコースとして北名古屋市民に対し、妙高メディカルグリーンツアーとして26名の参加で実施された。このツアーは「メディカル」の特徴付けとして、上越医師会の後援を得て、参加者の安全・安心を保障する体制が取られた。

「介護準備・学習コース」は平成23年の1泊2日のコースから平成24年は日帰りのコースに変更され、直江津学びの交流館との連携事業として実施され、14名の参加であった。

平成25年の「健康改善・リフレッシュコース」は、これまでの看護大教員による全面的な企画・実行の関わり方から、看護大が担うべき調査研究(エビデンスの取得)の部分的な「協力」の関わり方になった。従って主催者は妙高市観光課と新幹線まちづくり上越広域連携会議になった。「介護準備・学習コース」は、本学が法人化されたこともあり、参加者から昼食費・保険料・資料代などの実費(2,000円)を徴収した。「健康改善・リフレッシュコース」と「介護準備・学習コース」の両コース合わせての参加者は44名となった。

(2)新たな調査研究の始まり

「健康改善・リフレッシュコース」の更なるブラッシュアップの為に新たな調査研究が始められた(主に酒井、小林担当)。それは平成22年に実施された前回のニーズ調査に引き続き、首都圏在住30~50歳代の方々の健康ニーズの面接調査と、さらに温泉効果についての文献検討である。この調査研究は次年度(平成26年)に続いている。

6)認知症講座

平成25年度は「認知症の理解・支援を学ぶ」とのタイトルで小泉教授が担当し、平成24年度に引き続き直江津学びの交流館との連携事業として実施された。法人化に伴い、参加費用の実費(2,000円)を徴収し、認知症の専門医や包括支援センター、家族の会とのネットワ

ークを生かした全 5 回の講座が組まれた。

2、メディカル GT と特別研究部門との関係

首都圏在住者のメディカル GT に関するニーズ調査とコース検討が行われた平成 22 年と、最初のモニターツアーが行われた平成 23 年の 2 年間の特別研究部門は、メディカル GT の活動のみであった。従って開催される会議は部門会議とは言われずに、直接的に分かりやすく「メディカル GT 会議」と言われていた。しかし平成 24 年度から「直江津学びの交流館」との連携事業として行われていた「認知症」講座が特別研究部門事業として位置付けられることになり、特別研究部門はメディカル GT と「認知症」講座の 2 事業を担うこととなった。

このような経緯によって平成 25 年度の報告はメディカル GT 事業として「健康改善・リフレッシュコース」と「ニーズ調査の新たな研究調査」、「介護準備・学習コース」の報告、さらに直江津学びの交流館との連携事業として「認知症講座」の 2 事業について、それぞれの担当教員が報告する。

3、今後の事業展望

1)メディカル GT 事業

(1)健康改善・リフレッシュコース「妙高メディカルグリーンツアー」

「メディカル」をキーワードに、医療、健康、食、森林歩き、温泉、介護を組み込んだメディカル GT 事業は、最終的には「妙高メディカルグリーンツアー」に集約された。それは現代市民の健康志向に合った妙高高原の森歩きと温泉入浴、さらに妙高市が持つ災害提携都市(北名古屋市など)との連携による応募者の確保がツアー企画の成功に大きく寄与したと考えられる。

一方看護大学の「妙高メディカルグリーンツアー」に対する役割は、このツアーを特徴づける「メディカル」の部分と考えられ、参加者の「身体的な安心・安全の保障」と参加者の「体と心のリフレッシュ」を科学的に評価することとされ、この担当部分は今後も引き継がれる。

(2)介護準備・学習コース

超高齢社会は介護関連技術と知識の向上を必要としているので、介護準備・学習コースは、「介護の経験がない人に対する今後の準備のためのコース」であった。しかし実際の参加者は ① 現在既に要介護者を抱えている ② 介護施設職員で研修目的 ③ 親の介護が終わり、介護を受ける立場での準備 などの多様な参加者を含んでいた。このような参加者ニーズと、地域には様々な介護関連資源があることから、看護大学が果たす役割を再検討し、新たな取り組みが考えられている。

2)認知症講座

我が国の認知症対策は重要課題である。平成 24 年度の時点で、認知症の人は約 462 万人、軽度認知障害の人は約 400 万人と推計されている。予備軍を含めると 65 歳以上の 4 人に 1 人が認知症(軽度認知障害を含む)といった推計である。平成 24 年 9 月 6 日に厚生労働省は、認知症施策推進 5 か年計画(平成 25 年度から 29 年度までの計画)「オレンジプラン」を公表

した。このプランでは、これまでの病院・施設を中心とした認知症施策を、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられる在宅中心の認知症施策へシフトすることを目指し、地域での医療や介護、見守りなどの日常生活支援サービスを包括的に提供する体制づくりを目指した具体的な方策がまとめられ、既に展開されてきている。まさに、「認知症新時代」を迎えたといったらよいだろう。平成 24・25 年度と 2 年間にわたって開催した本講座には認知症疾患医療センターの専門医、地域包括支援センター職員、家族の会の代表者、看護大学老年看護学の教員等が講師をつとめた。この講座の企画・運営を通して、ここ上越地域には認知症ケアに関わる様々な資源・ネットワークが存在することを知ることとなった。来年度以降は、このネットワークを地域全体に広げて、認知症になっても「住み慣れた地域で暮らし続けられる街づくり」を趣旨とした会合あるいは研修会をもつことを考えている。したがって、本講座は一先ず発展解消することにする。

3) 新たな事業(詳細は今後検討される)

(1) 卒業生支援に関する研究

平成 14 年(2002 年)の本学の開学以来、多くの卒業生を輩出してきた。そこで来年度以降、卒業生の名簿(連絡先)を作成し、潜在看護師の活用方を検討し、かつ看護師のライフステージを考慮した支援体制を検討するのにふさわしい時期と考えられた。支援体制を提案する過程を通して時代に即した看護教育の検証にもつながるものと考えられる。

(2) 地域政策課題研究

地域の「健康・福祉のまち」をめざした事業展開であり、多くの関係者とのネットワークを形成し地域の政策課題に取り組むものである。

4、終りに

これまでのメディカル GT 事業の実施に当たっては、多くの関係者の協力を得た。以下の名簿(平成 22 年度～25 年度：敬称略)に記して感謝申し上げる。また名簿記載はないが、上越医師会を始め労災病院々長、福祉施設関係者、高齢者用食事提供割烹、またツアー参加者の協力に改めて感謝申し上げます。

○平成 22 年度

市川重隆上越市健康福祉部高齢者支援課副課長、若山秀樹上越観光コンベンション協会総務企画課長、金子久司上越ツーリスト代表取締役、敷根俊一妙高自然アカデミー理事長、内田洋介ウチダスポーツ、齊京貴子正善寺工房食の工房ネットワーク、梅田みどり料理研究家

○平成 23 年度

高橋和則上越市健康福祉部高齢者支援課副課長(市川氏後任)

【オブザーバー】

吉田正典上越市総合政策部新幹線・交通政策課新幹線まちづくり推進室室長、平原謙一 同主任、高橋正一妙高市企画政策課未来プロジェクトグループ長、馬場慎太郎同スタッフ、若林秀樹上越観光コンベンション協会総務企画課長

○平成 24 年度

【オブザーバー】前年度のメンバーに加えて

中根章雄上越観光コンベンション協会観光振興専門官、大島雅子上越観光コンベンション協会総務企画課長(若林氏後任)、角張修直江津学びの交流館生涯学習指導員、矢澤正隆同指導員
○平成 25 年度

【オブザーバー】前年度のメンバーに加えて

大島佑介上越市企画政策部 新幹線・交通政策課 新幹線まちづくり推進室、松岡希望妙高市観光商工課観光振興グループ

【資料】特別研究部門関連報道等

- 1)直江津学びの交流館カレッジ後期講座募集 認知症の理解・支援を学ぶ、看護大での「排泄ケア」演習と介護施設見学 上越市広報 2013 年 7 月 15 日号
- 2)「認知症」学ぶ講座にご参加ください 県立看護大×直江津学びの交流館 上越タイムスクビきの創信 2013 年 8 月 13 日
- 3)介護を学ぶ講座と見学 看護大が企画 来月 28 日 新潟日報上越かわらばん 2013 年 10 月 25 日
- 4) 28 日に連携講座 直江津学びの交流館と看護大 上越タイムスクビきの創信 2013 年 11 月 5 日
- 5)「排泄ケア」で介護学ぶ 地元住民対象に勉強会 県立看護大 上越タイムス 2013 年 12 月 2 日
- 6)介護準備・学習コース「看護大での「排泄ケア」演習と介護施設見学」講座 准教授 永吉 雅人 PORTICO Vol. 24, 5. 2014



燕温泉河原の湯(野天風呂)

Ⅱ. メディカルグリーンツーリズム 健康改善・リフレッシュコース「妙高メディカルグリーンツアー」 気候療法ウォーキング(妙高高原)のリラックス評価

水口陽子 山田真衣

1. はじめに

メディカルグリーンツーリズムは看護研究交流センターの特別研究部門事業として、平成 27 年度開業予定の北陸新幹線の活用を視野に入れ、平成 22 年度から始められた。この事業は上越地域の自然環境と医療・看護・福祉に関する資源を用いて、都市部と農山漁村に暮らす人々の交流から、地域の活性化と「双方の人々の健康」を目指している。

メディカルグリーンツーリズムでの健康改善・リフレッシュコースは妙高メディカルグリーンツアーとして、昨年度に続き平成 25 年 10 月 29 日から 31 日までの 3 日間で実施された。昨年は本学がツアー全体のプログラムを担当したが、今年のツアー主催は妙高市になり、新幹線まちづくり推進上越広域連携会議との共催で実施した。本学は 10 月 30 日に実施された気候療法ウォーキングのリラックス効果を評価する調査研究の部分を担当・協力した。

過去 2 年間の健康改善・リフレッシュコースでは妙高高原での森林セラピーとノルディックウォーキングの科学的なリラックス効果を評価した¹⁾。それに引き続いて今年度は気候療法ウォーキングの評価を実施した。気候療法ウォーキングは既に何回か妙高高原で実施されてきたとのことであるが、そのリラックス効果の評価は初めてであった。

評価の方法はこれまでと同様に唾液アミラーゼの活性値測定²⁾と POMS(Profile of Mood States)の調査³⁾であった。気候療法ウォーキング実施前後の 2 回、唾液アミラーゼの活性値測定と POMS 調査を実施して参加者のリラックスの程度、疲労の程度を評価した。

2. 平成 25 年度妙高メディカルグリーンツアーの概略

○実施日：平成 25 年(2013 年)10 月 29 日(火)から 10 月 31 日(木)の 2 泊 3 日

○行程等：(初日)善光寺見学、いもり池・妙高、高原ビジターセンター見学(池の平)、温泉ソムリエ講話(赤倉ホテル ANNEX)、田端屋泊(妙高・杉野沢温泉)

(2 日目)気候療法ウォーキング(笹ヶ峰高原)・健康セミナー・リクリエーション、温泉療法(赤倉温泉)、リラクゼーションセミナー、新赤倉館泊

(3 日目)野菜収穫体験(大洞原)、調理体験(妙高山麓都市農村交流施設)、
妙高山麓直売センターとまとで買い物、岩の原葡萄園見学

○参加者：北名古屋市ウォーキングの会、他に様々な市民の会会員 30 名

○主 催：妙高市と新幹線まちづくり推進上越広域連携会議

○協 力：新潟県立看護大学看護研究交流センター、北名古屋市

3. 気候療法ウォーキングのリラックス評価

1)唾液アミラーゼの活性測定

(1)測定は(株)ニプロ 唾液アミラーゼモニターと専用チップを使用する。

- (2)参加者 5 名のグループ毎に 1 名の測定者が測定する。
- (3)測定タイミングは気候療法ウォーキング実施前後の 2 回とする。
- (4)測定方法は唾液採取からくり返して 2 度測定する。得られた 2 個の測定値が大きく乖離した場合は 3 度測定する。乖離の大きさ判定は、使用したモニターの同時再現性の変動係数(CV)は約 10%であるので、1 度目の測定値(A)と、2 度目の測定値(B)の差が $A \pm 3CV \times A$ を超える測定値は大きな乖離と判定して棄却する。乖離した測定値は棄却して、残り 2 個の測定値を平均する。また 3 度目の測定値も大きく乖離した場合は 4 度測定し、最も小さい測定値と最も大きい測定値を棄却して残り 2 個の測定値を平均する。

2)POMS 調査

- (1)POMS(短縮版)を使用し、その調査用紙に参加者自身が記入する。
- (2)調査のタイミングは、気候療法実施前後の 2 回とする。
- (3)調査後の分析は、POMS の素得点を計算し、項目ごとに気分プロフィール換算表を用いて、素得点から T 得点(標準化得点)を算出する。参加者の事例ごとに、緊張-不安(T-A 得点)、抑うつ-落込み(D 得点)、怒り-敵意(A-H 得点)、疲労(F 得点)、混乱(C 得点)、活気(V 得点)から算出する T 得点と、それらの項目の上昇・下降のパターンに注目して分析する³⁾。



写真 1 唾液アミラーゼモニターでの測定



写真 2 POMS 調査用紙への記入風景

4. 気候療法ウォーキングの実施

1)方法

- (1)参加者全員に腕装着型血圧計を装着し、各自血圧値を確認する。
- (2)気候療法士が参加者に気候療法と気候療法の歩き方を説明する。
- (3)参加者全員に歩数計を配布し装着する。
- (4)開始から終了までに要する時間は約 80 分間とする。
- (5)ゆっくり遊歩道を歩く。登り坂は気候療法士の指導で歩幅を狭めて登る。

2)実施

気候療法士の宮地正典氏から気候療法の概念と気候因子の生体への影響についての話があり、参加者は準備体操と手首装着タイプの血圧計を付けて出発した。



写真3 ドイツトウヒの林を歩く参加者



写真4 清水ヶ池での北名古屋市の参加者全員



写真5 湖面に映える白樺林



写真6 紅葉と落ち葉の森林セラピーロード

5. 気候療法ウォーキング実施前後の唾液アミラーゼの活性値と POMS の調査結果

ウォーキング実施後の唾液アミラーゼ平均活性値には低下傾向が認められた。個々の参加者では実施後に活性値が低下し、リラックス効果の認められた人が多かったものの、逆にアミラーゼ活性値が上昇した人もいた。そのために実施前後の唾液アミラーゼの活性値には有意な差は認められない結果であった。

POMS 調査の結果は、気候療法ウォーキングによって「元気になった(冰山型)」参加者の多いものの、「疲れた(谷型)」と推測される参加者も見られた。

参加者全体としては、気候療法ウォーキングの実施は唾液アミラーゼの活性値をやや低下させ、POMS 調査では元気になった傾向が認められた。このことから妙高高原での気候療法ウォーキングは参加者の交感神経を鎮静化させ、心身をリラックスさせる傾向が伺えた。課

題は気候療法ウォーキングでリラックスできなかった参加者の条件をまとめることと考えられる。

これまでの私たちの森林セラピーとノルディックウォーキングの研究では森林セラピーとノルディックウォーキング実施前後の唾液アミラーゼの活性値には、心身のリラックス効果の有意が統計的に認められた。森林セラピーは $p<0.01$ で、ノルディックウォーキングは $p<0.05$ であった¹⁾。

一方、今年の気候療法ウォーキングは、実施前後の唾液アミラーゼの活性値には、統計的な有意が認められない結果であった。従って同じように妙高高原を歩く森林セラピー、ノルディックウォーキングと今回の気候療法ウォーキングの唾液アミラーゼの活性値には違いがあった。このことは多様な「妙高高原セラピーロード歩きプログラム」を考える上では意味のあることと思われる。

謝辞

妙高市と新幹線まちづくり推進上越広域連携会議から調査費用と唾液アミラーゼ測定員の応援を頂いた。特に松岡氏(妙高市観光商工課観光振興グループ)には御世話になった。また、大学内外からも御協力をいただいた。御協力をいただいた皆様に深く感謝いたします。

文献

- 1) 水口陽子, 山田真衣, 永吉雅人, 他(2008): 森林セラピー及びノルディックウォーキング参加者の心身反応に関する研究—シルバー世代の反応—. 医学と生物学, 156(4), 212-217.
- 2) 山口昌樹, 吉田 博(2005): 唾液アミラーゼ活性による交感神経モニタの実用化, Chemical Sensors , 21(3), 92-98.
- 3) 横山和仁(2005): POMS 短縮版 手引と事例解説, 金子書房, 東京.

Ⅲ. メディカルグリーンツーリズム

介護準備・学習コース『看護大での「排泄ケア」演習と介護施設見学』講座

永吉雅人 平澤則子 高林知佳子

1. はじめに

介護準備・学習コースは、メディカルグリーンツーリズムの1つのコースとして検討を進めており、初回は都市部の参加者を念頭において実施された。しかしながら、地元の方々を対象とした実施要望の声があり、昨年度より「グリーンツーリズム」の精神からは離れ、地元の方々を対象として、新潟県立看護大学看護研究交流センターと「直江津学びの交流館」との連携事業として実施に至っている。ここでは本年度の実施概要を報告する。

2. 『看護大での「排泄ケア」演習と介護施設見学』講座の実施概略

講座の実施概要は次の通りである。

1)実施日：平成25年(2013年)12月28日(木)

2)講座名：看護大での「排泄ケア」演習と介護施設見学

3)実施・見学場所：直江津学びの交流館、新潟県立看護大学、有料老人ホーム スローライフもんぜん、介護老人福祉施設 和久楽

4)参加者：上越地域市民14名(15名募集、応募人数16名から2名キャンセル)

5)参加費：2,000円(昼食代735円・保険料63円込)

6)主催：公立大学法人新潟県立看護大学 看護研究交流センター

7)連携：直江津学びの交流館

8)後援：上越市、新幹線まちづくり推進上越広域連携会議

3. 講座実施内容の概要

1)直江津学びの交流館集合およびオリエンテーション

9:30に直江津学びの交流館に集合し、各々受付(名札配布、参加費2,000円徴収、クリアブック配布(資料：大学講義・実技資料、見学先資料など))(図1)を済ませた後、直江津学びの交流館の矢澤生涯学習指導員によるオリエンテーション(図2)があり、講座の概要説明がなされた。その後、上越市のマイクロバスにて新潟県立看護大学へ移動した。



図1 受付



図2 オリエンテーション

2)新潟県立看護大学での講義・演習

新潟県立看護大学に到着後、精神・老年・地域看護学実習室にて、10:00 より平澤則子看護研究交流センター長による挨拶がなされた(図 3)。その後、講義に先立ち、参加者一人ひとりの自己紹介を行った(図 4,5)。参加者は30歳代から80歳代までの14名で、介護施設に勤務されている方5名の参加など、昨年度と同様に介護施設勤務者の学習の場としての役割を成していることが明らかとなった。また参加者は、現在介護中の人、すでに介護を終えた人、これから介護をしていく人というように立場の異なる人がそれぞれの想いで参加されていることがわかった。この自己紹介の時間をとったことにより、短い時間の中でも参加者同士のネットワークづくりにつながることを期待された。

続いて、地域看護学平澤則子教授による「排泄とねたきり度(身体の動き)の関係」「尿失禁の分類」「行動療法」の講義を行った(図 6)。参加者数人から「トイレでの排泄の大切さが理解できた」との感想が聞かれた。



図 3 平澤看護研究交流センター長の挨拶



図 4 参加者の自己紹介①



図 5 参加者の自己紹介②



図 6 平澤教授の講義



図 7 高林准教授の実習



図 8 ポータブルトイレへの移乗介助体験

次に、地域看護学高林知佳子准教授による「寝たきり度 J、A、B ランクの介護ケア」演習が行われた(図 7,8)。内容は ① 尿失禁のための下着やオムツの紹介と吸収力の実験、② 最新ポータブルトイレや吸引尿取パット等の福祉用具の紹介、③ 移乗介助方法の体験の 3 部構成で、優しく丁寧な説明がなされた。参加者からは絶えず質問がなされ、大変活発な演習となった。

3) 有料老人ホーム「スローライフもんぜん」(施設見学 1)

11:50 に幼老複合施設 介護付有料老人ホーム「スローライフもんぜん」(以下「もんぜん」)に到着後、入居者と同じ昼食(有料、参加者実費負担)の海鮮あんかけうどんを頂いた(図 9)。参加者は「施設の食事」を体験できて満足な様子であった。

昼食後、「もんぜん」の施設説明を受けた。特に、他に住宅型有料老人ホーム、デイサービスセンター(図 10)、さらに保育園を併設しており、保育園児との世代間交流会を行っているとのことであった。保育園児の様子をみて、参加者はみな笑顔になっていた。



図 9 「もんぜん」での昼食



図 10 「もんぜん」での施設案内

次に、「もんぜん」での排泄ケアについて説明を受けた。「できるかぎりトイレに行ってもらおう」ことを方針として、介護が必要な人も車いすの人もトイレに行ってもらおうようにしているとのことであった。また、オムツ対応になっても、オムツの時間という一律の時間を設

けず、個々人のペースや排泄結果(満足か、うまくいったか等)も記録・データベース化し、対応しているとの説明があった。

最後に、参加者からの質疑の時間があり、困ったことはあるかとの問いに、トイレに行きたいと「訴え」があるとトイレに連れて行かなければならないが、行っても「でない」、ということが挙げられ、介護現場の葛藤が見受けられた。また、入居に関しての質問があり、総合施設長より丁寧な回答がなされていた。

4)介護老人福祉施設 和久楽(施設見学 2)

13:45 に介護老人福祉施設 和久楽に到着した。参加者は2班に別れ、施設を回りながら説明を受けた(図 11,12)。和久楽はユニット型介護老人福祉施設で、プライベートな個室空間が確保され、さらにパブリック空間も十分に確保された自然で自由な生活ができる施設であった。入所者は「もんぜん」より介護度の進んだ方々で、要介護4・5の方が多いと説明された。また、入居者が家にいるような感覚を出すために、スタッフはネームプレートを付けないという気配りがなされているとのことであった。



図 11 「和久楽」の施設案内



図 12 「和久楽」のユニット方式の案内



図 13 「和久楽」の排泄ケアの説明



図 14 風船人形を使った紙おむつの演習

施設説明の後、施設5階の広いリハビリ・地域交流ホールにて、和久楽で実施している「がんばらない排泄ケア」のポイントについて吉村主任より説明を受けた(図 13,14)。特に、風船人形を使った紙おむつの演習が好評であった。

5)直江津学びの交流館にて学びのまとめ

15:00 に直江津学びの交流館に到着後、アンケート記入して頂き、記入後に、学びのまとめとして、参加者一人ひとりに参加して学んだことや感じたことを発言して頂いた。参加者はおおむね満足のものであったが、排泄の実技・実習をもっと体験したいとの意見が聞かれた。その後、15:45 に解散となった。

6)おわりに

『看護大での「排泄ケア」演習と介護施設見学』講座は、「とても満足」の声が多く、特に大学での講義・演習は、「満足」が11人中5人、「やや満足」が4人、「何とも言えない」1人、「やや不満足」1人と昨年度と同様に概して好評であった。また、参加費2,000円については、「ちょうど良い」が11人中10人、「やや高い」が1人であり、費用対効果を考えてみても良い講座であったことが伺われた。

本センターにおける介護準備・学習コースの取組み自体は、昨年度からの計画どおり行われた。一方、直江津学びの交流館でも新たに同様の取組みを始めており、大学にて企画した取組みの「実施主体を他団体に移行」できたと考えられることから、発展的解消となる。しかしながら、今後とも、参加者アンケートにもあったように、行政におけるますますの福祉・介護の取組みに期待したい。

謝辞

今年度首都圏の上越地域出身者にもご案内をさせて頂いたものの、首都圏からの参加者はゼロであった。それにも関わらず、大学や各施設間の移動においてバスを手配頂きました上越市、新幹線まちづくり推進上越広域連携会議に対しまして御礼を申し上げます。

IV. 認知症講座

直江津学びの交流館との連携による出前講座

小泉美佐子 原等子 加賀美亜矢子

1. はじめに

平成 24 年度に続けて、直江津学びの交流館との連携による 5 回にわたる「認知症講座～認知症の理解・支援を学ぶ」を開催した。

2. 実施概要

認知症の人を地域で支えるために必要な基礎知識を学ぶ 5 回連続の講座を企画した。医学的基礎知識(症状・診断・治療法等)、対応の仕方、認知症の人とその家族を支える仕組みや介護のアドバイスといった内容で表 1 に示す。第 4 回は認知症サポーター養成講座としてその受講を証す「オレンジリング」が授与された。直江津学びの交流館カレッジの講座のプログラムに組み込んだところから、30 名定員で募集したところ 13 名の参加があった。また、今回、2,000 円の受講料を徴収した。

講座テーマ 「認知症の理解・支援を学ぶ」

会場 直江津学びの交流館

企画・コーディネーター 小泉美佐子

表 1 平成 25 年度認知症講座「認知症の理解・支援を学ぶ」

回数	日時	内容	講師	参加人数
1 回	9 月 5 日(木) 14:00-15:30	認知症の人を支える	新潟県立看護大学 小泉 美佐子	13 人
2 回	9 月 13 日(金) 14:00-15:30	認知症の基礎知識 (症状・診断・治療)	高田西城病院 湯浅 悟	13 人
3 回	9 月 18 日(水) 14:00-15:30	認知症の人の対応の仕方	新潟県立看護大学 加賀美 亜矢子	13 人
4 回	9 月 26 日(木) 14:00-15:30	認知症の人を支える仕組み【認知症サポーター養成講座】	さくら聖母の園 地域包括支援センター 並木 幸江	13 人
5 回	10 月 3 日(木) 14:30-16:30	グループワーク 認知症の人を地域で支えるには	新潟県立看護大学 原 等子 家族の会新潟支部 田中 美紀	11 人

3. 評価

受講者は家族や親族に認知症の方がいる、自らや家族の将来のことを考え認知症と介護に関する知識を得たいといった方、認知症ケアに関係する事業所に勤務する方などであった。

昨年よりは受講者数が少なかったが、毎回熱心に参加していた。講座に対する満足度のアンケートでは、各回とも4段階評価で、「とても満足」・「満足」のランクに評価していて、全体に好評であった。2,000円の受講料については概ね妥当であると回答して下さった。

4. おわりに

2年間にわたって直江津学びの交流館との連携事業として本講座を実施した。認知症の人約462万人、予備軍を含めると65歳以上の4人に1人が認知症という時代を迎え、認知症は避けて通れない高齢社会の重大な課題であり、市民の関心も高い。国の施策でも認知症施策推進5か年計画(平成25年度から29年度までの計画)「オレンジプラン」が進行中である。このような社会情勢を踏まえて、こうした学びを上越地域全般に広げる方向で、本講座は一先ず発展的解消とする。

2年間にわたり、会場を提供しお世話頂いた直江津学びの交流館の皆様にご心より御礼申し上げます。



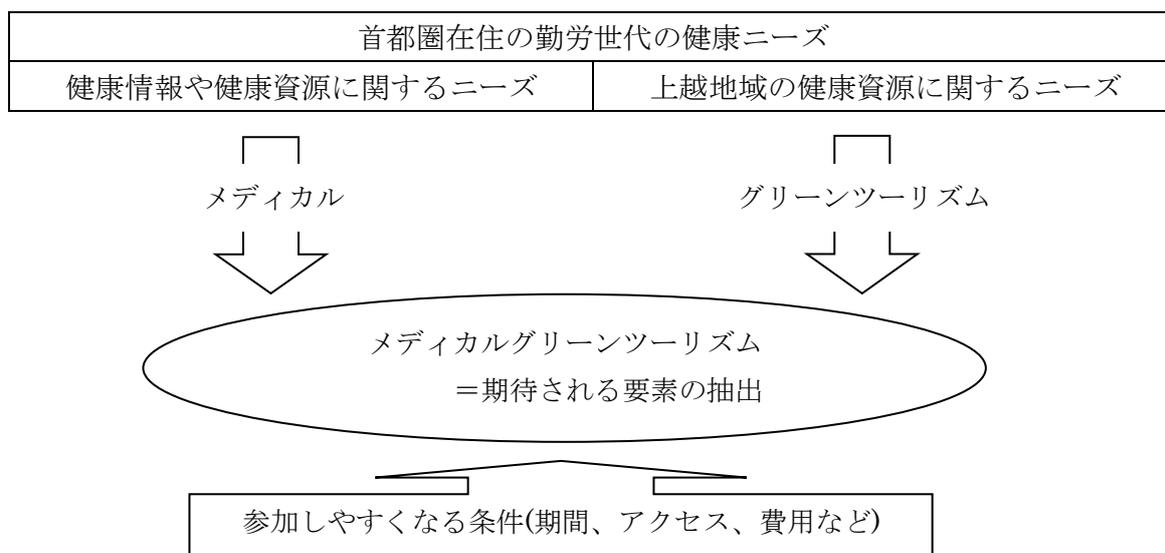
認知症の講座風景(直江津学びの交流館)

V. 首都圏在住者のニーズ調査と温泉入浴効果の文献検討

酒井禎子 小林綾子 山田真衣 水口陽子

1. 首都圏に在住する勤労世代の健康ニーズ調査

現在、北陸新幹線の整備が進められ、平成 27 年度春には開業が予定されている。そこで、北陸新幹線を活用した来県者の増加をねらい、新幹線を活用すると予想される沿線地域の首都圏在住者、特に 30 代から 50 代の勤労世代を対象としたヒアリング調査を行うことを通して、「メディカル」と「グリーンツーリズム」という 2 つの要素に基づいた健康ニーズ調査を実施することとした。



研究対象は、首都圏在住者で 30 代～50 代の勤労世代である一般市民であり、調査協力の同意が得られた者 10～15 名程度とし、研究者の知人か、学内関係者の協力を得て紹介された対象者などによる便宜的抽出法を用いた。平成 25 年 8 月よりヒアリング調査を開始し、現在東京都、埼玉県、神奈川、群馬県の在住者計 12 名のヒアリング調査を実施している。

次年度には、面接調査から得られた逐語録から、対象者の関心がある健康トピックスやメディカルグリーンツーリズムの参加を促進する要件を質的に分析する他、上越地域の観光資源 14 項目に対する関心の程度を 5 段階で質問した「上越の資源スケール」への対象者の回答の集計を通して分析を進め、集客が見込める健康資源の発掘と新たなツアー企画の提案につなげていきたいと考える。

2. 温泉に関する身体への影響に関するエビデンスの検討

上越地域の重要な健康資源の 1 つである温泉を活用した健康プログラムの開発と運用への一助とするために、文献検討を行うこととした。そこで、①温泉は、人間の循環・代謝活動にどのような影響をもたらすのか、②温泉は、どのような健康問題に対してどのような効果をもたらす可能性があるのかを当面のリサーチクエストとし、温泉とその身体への影響や健康への効果をトピックスとしている文献を検討し、現在明らかになっている知見を整

理・統合することとした。

文献検討は、文献検索システム「医中誌 web」を用い「温泉学」「健康」「影響」などのキーワードを用い、2008年～2013年の「原著」「総説・解説」であることを検索条件として探索的に収集した。現在、各キーワードを用いて検索された論文の中から重複しているものを除外するとともに、研究目的に合致した文献をリストアップする作業を行っており、次年度に文献の収集とレビューを実施する予定である。



妙高高原笹ヶ峰牧場